創立60周年記念

学校法人岩田学園 本主西幼稚園 本主泉幼稚園



▲大銀杏のもとの園庭(昭26年)



▲一杯の園児達 (昭27年)



▶第2代園長 岩田五郎 勲六等単光旭日章受章 (昭33年)



▲運動会も園庭で(第二岩田幼稚園 昭33年)



▲ 創立50周年記念·本庄西幼稚園新園舎 (昭57年)



木陰と木造園舎・本庄東幼稚園 (平2年)



▲園庭の藤棚



▲初代園長 岩田仲次郎と職員



▲第2代園長 岩 田 五 郎



▲第3代園長 岩 田 祥 江





学校法人岩田学園創立60周年 記念事業推進協力委員会発会式





▲ 春の遠足にパンダも参加

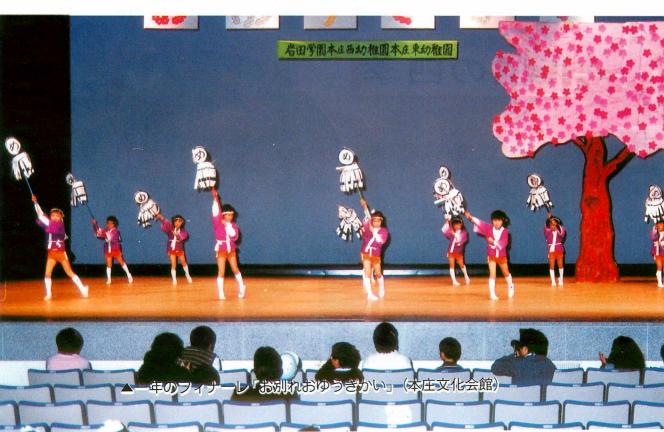


▲本物の文化を体験しよう



▲秋の収穫 芋堀り

楽しいふれあいの行事



正 誤 表

(誤) (正) P. 5 ℓ. 12 あった。 あった、 " 集る 群る 中心とする P. 11 ℓ. 9 中心とすると P. 14 ℓ. 16 星野仙染師 星野仙梁師 P. 20 写真提供 松本悦子氏 (添加) P. 26 ℓ. 22 暫くぶりにおあ会いして (削除) 話もしたい心境でいます。 (左右逆) P. 37 (写真) 新園舎 (写真提供 八木孝 P. 41 (写真解説) 明氏) P. 51 ℓ. 19 顧問弁護士 顧問税理士 [同窓生名簿] P. 1 P. 6 P. 185 [寄付金応募者芳名簿] (追加)

幼なるともに

学校法人岩田学園 本庄西幼稚園 本庄東幼稚園



挨 拶 素晴しき60年60周年記念事業実行委員会 会 長 高橋 福	
素晴しき60年60周年記念事業実行委員会 会 長 局備 備	·T 4
感謝の気持をこめで副 会 長 岩田 祥	
スマートで明るい夢いっぱいの園舎が実行委員長 堀口 久	枝 6
祝辞	
生涯学習の一環としての幼児教育を本 庄 市 長 茂木	稔 7
自己教育の醸成へ向けて本庄 市 教 育 長 塩原	暁 8
更なるご発展を全埼玉私立幼稚園連合会副会長 岸田	章 9
三位一体安 養 院 住 職 星野 泰	雄 10
祝 開園60周年によせて!―言稲山学園若泉幼稚園長 稲山 鶴	代 11
序	
第1部 創立の頃	
創立の頃推集委員会事務局 岩田 龍	[司 14
岩田学園「第一回生として」昭5年度(第1回)卒 池田 文	雄 15
昔の友との再会昭10年度(第6回)卒 山中	清 16
芍薬の絵昭13年度(第 9 回)卒 村山美恵	辽子 17
ゲンコツ萬歳‼昭14年度(第10回)卒 山口 敏	文裕 18
開園当時の職員として岩田学園理事長・園長 岩田 祥	洋江 19
第2部 戦時下の幼稚園 1971年	
心(一口()) 相 石田为旧图	
わらずず C 6 2 4 C 6 2 4 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	李一 22 与三 22
超低空で旋回する飛行機昭20年度(第16回)卒 岩田 青	包司 23
第3部 戦後そして第二岩田幼稚園設立へ	
*** * ***	印男 28

「ほめる」と「叱る」の上手な使い方 昭24年度 (第20回) 卒 加藤 玄静

〜幼児教育のプロ〜

28

第二岩田幼稚園設立の頃推進委員会事務局	岩田	龍司	29
幼稚園のおもいで昭29年度(東1回)卒	照井	文子	31
回想 PTA結成の頃推進委員会実行委員長	堀口	久枝	32
昭和30年から40年の頃の幼稚園推進委員会実行委員 旧職員として	島方	千鶴	33
第4部 学校法人への発展			
学校法人設立の頃岩田学園理事	岩田	龍司	36
園舎建築の思い出※第一建設会長	坂上	秋作	37
『私の昆虫採集記』刊行の頃岩田学園理事	岩田	龍司	38
新園長として岩田学園理事長・園長	岩田	祥江	39
創立60周年記念事業園舎建築のこと岩田学園理事	岩田	龍司	40
東幼稚園園舎建築に想う真下建設 取締役社長	真下	恵司	42
園舎建築のこと八木建設 代表取締役	八木	茂幸	43
60年という実績の中の保育本庄東幼稚園旧職員	太田	淑子	44
第5部 幼稚園の日々			
園医として塩原医院 院長	亀森	英武	46
園医として空本デンタルクリニック 院長	宮本	信夫	46
幼稚園の学校薬剤師としてすや薬局 薬剤士	中原	千賀	48
子供と一緒にPTA役員も卒園…本庄東幼稚園PTA会長	高橋	稔子	48
スクールバスの一日本庄東幼稚園職員	千代田	光弘	49
会員の充足を目指して本庄西幼稚園PTA会長	梅沢貴	志子	50
丹精こめた庭木づくりを昭23年度(第18回)卒	岩田	二郎	50
帳簿・財務諸表への高い信頼度			
一監事・顧問弁護士として岩 田 学 園 監 事	小池	幸雄	51
上野動物園 ············岩 田 学 園 評 議 員	大木	玲子	52
三人それぞれの幼稚園風景岩 田 学 園 評 議 員	春日く	に子	53
思い出岩田学園監事	齊藤	君代	53
東幼稚園を前にして岩 田 学 園 評 議 員	清水	淳子	54
あけびの思い出岩 田 学 園 評 議 員	中村多	美子	55

	忘れられない経験 岩 田 学 園 評 議 員 福島 永子	55
	山の手の幼稚園岩 田 学 園 理 事 吉川 洋一	56
	幼稚園と小学校昭34年度(東6回)卒 丸山 修	57
	幼稚園教育の新しい方向本庄西幼稚園教諭 岩田紀美代	58
	子供の心に触れる喜び 一職員として 本庄東幼稚園教諭 千代田信子	59
資	料	
	岩田学園60年の歴史	62
	岩田学園卒園児数一覧	63
	年間行事予定	64
	本庄西幼稚園・本庄西幼稚園の変遷	65
	創立60周年記念事業の歩み	67
	創立60周年記念事業推進協力委員芳名一覧	

岩田学園卒園者名簿

創立60周年記念事業寄付金応募者芳名簿

「素晴らしき60」

学校法人岩田学園理事 創立60周年記念事業実行委員会 会長高橋福八



岩田幼稚園創立60周年を記念致しまして此の度東幼稚園々舎建替と記念誌及び卒園 者名簿の発行を計画致しました処、関係各位の皆様にはその趣旨をよくご理解くださ り全面的な協力を賜りまことに有難うございました。

お陰様で東幼稚園は古い木造の建物からプール付きの近代的な立派な園舎に生れ変わることが出来ました。特に工事をお引き受けいただきました卒園者の眞下建設、八木建設両社々長様には一方ならぬご助力をいただきあらためて御礼申し上げます。

さらに、未だなし得なかった卒園者名簿作りについては卒園者及びPTAの皆様には昼夜を分かたぬご協力をいただき、立派な記念誌と共に完成させることが出来ました。又、実行委員会の皆様には、いつも夜遅くまでなごやかな中にも真剣な討議を重ねられ、まことにご苦労様でした。心から厚く御礼申し上げます。

ふり返ってみますと岩田幼稚園創立以来60年間の足跡はあまりにも大きく、又、市民にも素晴らしい影響をあたえ続けて参りました。卒園者実に7,000名、現在市内は勿論のこと県内外でご活躍されている有為の人材を数多く輩出しております。これは、岩田先生ご一族の子供に対する愛情、職員先生方の教育に対する取組みの成果であり正に素晴らしい!の一語につきます。60年は人間で申せば還暦、つまり人生の大きな一ト節を乗り越え、これから又、生まれ変わって第一歩から新しい人生を歩み出すスタートラインです。この祝典を契機として新生岩田幼稚園のさらなるご発展を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。おめでとうございました。



感謝の気持ちをこめて

学校法人岩田学園 理事長・園 長 岩 田 祥 江

此の度当園60周年記念事業の一環として、東幼稚園の建設を御計画くださり、卒園者、その他の方々から御芳志をいただき見事完成させてくださいましたこと、お礼の申し上げようもない喜びでございます。

省みますと、昭和5年初代園長岩田仲次郎が、本庄町皆様の御後援をいただき、幼稚園を創立して、ささやかな園でしたが、全町、台町諏訪町からも毎朝小学校(現西小学校)へのお兄さん、お姉さんといっしょにお出でになったあの頃、今考えると夢のようでございます。

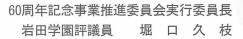
昭和25年2代目園長が就任し、創立30周年記念に、母の会はPTAに発展し、その 初代会長が堀口久枝様でした。そして50周年記念に法人組織となり、更に西幼稚園の 園舎が安養院主様の御厚意で南向きの鉄筋建となり、更に今度の60周年記念に東幼稚 園園舎が鉄骨造りの明るい建物になりました。

当初の頃の園の傍にあった。本庄駅からも見えると云う大銀杏に集る雀、他の何百羽とも知れぬ鳥達の朝夕の賑やかなさえずり、安養院様との間の多数の梅の香り、そのうち園服が制定されたり、なつかしい思い出がいっぱいでございます。

初代~二代目~そして私まで、変わらぬ御愛顧、御厚情のもとに育ってまいりました岩田学園、本当にありがとうございます。どうぞこれからも、御指導、御支援くださいます様、よろしくお願い申し上げます。私も老躯に鞭打ち、「子供の楽園」を守り育てる覚悟で居ります。

皆々様の御健勝、御多幸をお祈り申し上げ、感謝の気持ちをこめて御挨拶と致します。

スマートで明るい夢いっぱいの園舎が





岩田学園本庄東幼稚園々舎、新築おめでとうございます。

私立本庄岩田幼稚園が学校法人になってから、評議員の私も年に何回か関わりを持つようになりました。平成元年評議員会の席のことです。幼稚園の園舎は「夢いっぱいで楽しく明るい」ものであって欲しいとお話したことがきっかけになり、本庄東幼稚園園舎が老朽化により建替えの時期に来ていることに話題が絞られ、後接会をつくり寄付金を集めようということになりました。後接会は「学校法人岩田学園創立60周年記念事業推進委員会」という名称に決定し、会長に高橋福八氏をお迎えし、ひとつひとつ具体化へ向けて活動を始めました。その折、私にも何かやって欲しいとの要請で実行委員長を仰せつかり、微力をも省みずお受けしてしまいました。正直いって、経験もなく大それたことを受けてしまったと不安ばかりつのりました。しかし、寄付金集めも推進委員会の皆様のご協力、大勢の卒園者の方々のご理解とご支援により、ほぼ目標額を達成することができました。本当に心より厚くお礼を申し上げます。

真下建設株式会社様、八木建設株式会社様ありがとうございました。設計から完成までずいぶん無理をお願いしたかもしれません。お陰様でスマートで明るい夢いっぱいの園舎が完成致しました。外階段の隣の非常用に作ったすべり台は園児達の評判もよく、来る夏にはプール(二階)もオープンとか、園児達の喜びが目に浮かびます。

皆様の心温かな善意が花開き、幼児教育に大輪の花咲く日も遠くなく思われます。 大勢の皆々様本当にありがとうございました。心より厚く御礼と感謝を申し上げます。 どうぞ皆々様方、園にお立ち寄りくださいまして、のびのびと楽しそうに教育を受け ている園児ひとりひとりの顔を見てください。お待ち致しております。



生涯学習の一環としての幼児教育を

本庄市長 茂 木 稔

学校法人岩田学園の創立60周年記念誌の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。 貴学園は、昭和5年に創立以来、60周年の永い間本庄市の幼児教育のため、園長さんをはじめとして役員の皆様ならびに先生の皆様の熱心な教育活動にご尽力いただいておりますことに、心より深く敬意を表する次第であります。

幼児教育は、義務教育前の最も大切な時期にある幼児に対して、適切な環境を与えて幼児の心身の健康な発達を育むことを目的としていることはいうまでもありません。

幼児期によい環境と適切な指導のもとに、集団の場において望ましい体験を持つことが、その後の人間形成の営みを通じて極めて大きな役割を果たすものであり、私たちの未来を託する幼児が明るく健やかに成長していくことが、次代の社会の形成に重要な意義を持つものであると考えております。

本庄市では、豊かな人間性をつちかい、市民文化をそだてるために、幼児教育を生涯学習の一環としてとらえ、就学前教育の充実につとめてまいりたいと考えておりますのでご支援ご協力をお願い申し上げます。

ここに、貴学園の益々のご発展と併せて皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ挨 拶といたします。

自己教育の醸成へ向けて

本庄市教育長 塩 原 暁



学園創立60周年記念を迎え心から御祝い申し上げます。関係者の皆様、ならびに御卒園された多くの方々の喜びは、さぞかし多大であろうと拝察しております。半世紀以上の歴史を培った貴園においては、言葉では言い表わせない、いろいろなことがあったであろうと想像しております。60年の永きにわたり本庄市の幼児教育を支えてこられた御功績に心から敬意を表します。

子供一人一人を大切にし、心の内面を理解し、その成長を援助してくださっている 幼稚園教育は子どもの意欲を引きだし、やがては主体性や自主性をはぐくむことにな ると思います。それは、現在の教育課題の一つである自己教育力を醸成することに密 接な関係があると信じております。当学園を卒園された方々が社会に出て、それぞれ の立場で活躍され、今の社会を力強く支えて下さっている姿を拝見したり、拝聴した りしますが、まさしくこのことを実証してくださっていると思います。

60年といえば、まさに昭和史そのものであります。戦前戦後を通じて社会的混乱の時代から高度経済成長期、更に飽食の時代へと変遷してまいりました。各時代の時流を乗り越えた当学園の教育には、歴史的に評価された貴重な教育観が確立されております。今後ますますその力を発揮されることをお願いし、お祝いのことばといたします。

更なるご発展を

全埼玉私立幼稚園連合会 北部ブロック担当副会長 行田幼稚園園長 岸 田

查

学校法人岩田学園では、この度創立60周年をお迎えになられたとのこと、心からお慶び申し上げます。思えば、昭和初期の時代から3代もの間、多くの人々の幸せを願って数々の御苦労と御努力を重ね、良き伝統を築き、孜々として弛むことなき献身的な幼児教育への御熱意は、郷土の皆様の等しくお認めの事でございます。

さて、現在埼玉県の私立幼稚園は600有余園の多きに達し、全国第三位の園数となり、ますます幼児教育の進歩発展を願い努力を重ねておりますが、この発展の姿は60年の長きに亘る貴学園の軌跡が大きな力となっていることは、否み得ぬ事でございます。幼児教育は全てに勝って人間形成の上で重要なものであり、幼児期に形成された考え方、生活態度が終生に亘って影響を与えるといわれています。益々重要度を加えていく幼児教育の道を、生活の多様化、価値観の変化の中で、貴学園が今後共、力強く歩み続けられますよう更なる御発展を祈念しお祝いの言葉と致します。

三位一体

安養院住職 岩田学園理事 星 野 泰 雄



学校法人岩田学園も幾多の難関をのり越えて立派に成長し、ここに六十周年を迎えましたことに、心から敬意を表します。 平成元年より二年半にわたる記念事業を完了し、本日の式典を迎えましたこと、ともどもお喜び申し上げます。

思うに、物事が円成するためには、三拍子が揃わなければなりません。当岩田学園の場合、卒園者、学園関係者の皆様方の尊い寄進の篤い心が一つ、優秀な設計者と誠意ある建設業者に恵まれたことが一つ、そして本庄市・県・国・私学振興会の援助を戴いた事が一つであります。法人としてこの三つの要素がかみ合い、今日の運びとなりましたことは誠に喜ばしいことであります。

しかしながら、このようなすばらしい園舎は単なる飾りものではありません。「三 つ子の魂百まで」の言葉ではございませんが、幼児教育は非常に重大なものです。人 生の進路を誤らぬように、そして将来の幸せな生活、生きる喜びを産み出せるような、本圧市を代表する子供達を育てることが大切な使命です。この教育の心を心として、日々精進を怠らぬよう努めなければなりません。岩田学園は理事、評議員一体となり、未来は洋々として、使命は重且つ大であります。お互い心を一つにし力を合わせて、幼児教育のため努力することを申し上げ、謹んで祝辞といたします。



祝、開園60周年によせて!一言

学校法人稲山学園 若泉幼稚園園長 稲 山 鶴 代

開園60周年おめでとうございます。お祝いにつきまして元職員でありました関係か ら、昔の園の様子をとの事でした。私がお世話に成りましたのは昭和37年4月から40 年3月までの3年間でした。岩田幼稚園(現西幼稚園)は、本庄市の幼児教育の先駆 者であり、その時々の幼児教育の在り方について日々研究され、最先端を走れるよう 職員を心よく研修に参加させ、今日本当に役立たせて頂いて居り、感謝致しています。 また、前園長の五郎先生には、園児共々感慨深い思い出がございます。雨の日必ず保 育室にこられまして、ピアノを弾いて下さいました。曲名は「月の砂漠」です。園児 と一緒に歌ったり、話をしたり、ひとときを本当に心なごむ思いで一杯でした。この 園長先生があってこそ幼児教育の基本である心情・意欲・態度を中心とすると新しい 教育要領へと移って参りましても、恐れる事なく大事な子供を信頼してお預けできる 幼稚園として発展されているのです。今、若いお母さん方の子育てが問題となってお りますが、これも先生方が多方面の協議会に出席され、沢山の資料等研究され、お母 様方の相談に対処できる様配慮されています。私共の幼稚園も見習いながら幼児教育 の為、努力して行きたい所存でおります。西幼稚園に続き東幼稚園も明るい素敵な園 舎も完成され、益々本庄市の幼児教育の振興に寄与されます事をご期待申し上げお祝 いの辞と致します。

岩田学園が今年創立60周年を祝います。人間50年と古人は言いましたが、その後60年になり、80年になり……。

とにかく、ひとりの人間の歳月とすれば、60年という歳月は、誕生から幼少年期・思春期・青春期と巡って、今ようやく熟年の域に達したということでしょうか。その間、私立岩田幼稚園以来今日まで、そこには常に幼年期の園児のみがいました。その数6,500を越えます。時代の変遷に敏感に反応する部分と、幼児に普遍的な変わらざる部分と……。芭蕉はそれを「不易流行」と呼びましたが、幼稚園はそれを正面から引き受けてきたのです。ただ、時代に流されまいとする姿勢が強かったと言えましょうか。子供は大人のミニチュアではなく、子供は大人とは次元を異にした存在である、それはおとなのはからいから自由でなければならない。そういうとらえ方が、本庄西・東幼稚園の基本方針となっています。20世紀後半の最大の発見は、子供を発見したことであるというのを何かで読みましたが、親・社会の期待と子ども独自の世界の保証との両面をこれからも追求していかねばなりません。

60周年を祝うに当たり、「学校法人岩田学園創立60周年記念事業推進委員会」は2年半にわたり準備をすすめてきました。記念事業として、推進委員会は、1.本庄東幼稚園々舎新築、2.同窓生名簿作成、3.記念誌刊行、の三事業を決定し、そのための寄付金募集活動を行いました。50周年記念行事までは園長個人の力で行ってきたものが、この段階で質的に大きな飛躍を遂げたわけです。実行委員の精力的な活動に応えて900名に達する同窓生・協賛者の方々が2,000万円を越す寄付金を寄せてくださいました。また、はじめての同窓生名簿は、187名の推進協力委員のご協力を得て完成させることができました。寄付金をお寄せ下さった方、名簿編集にご協力下さった方のご芳名を掲載し、ここに心より感謝の意を表します。

60周年は以上のように岩田学園の歴史の中で画期的な年となりました。これから更に充実した幼稚園教育を行っていくこと、それが多くの方々のご好意ご厚情におこたえすることだと肝に銘じております。有難うございました。

第1部 創立の頃

創立の頃

岩田学園理事 岩田 龍 司

岩田学園が、私立本庄岩田幼稚園として、現在の本庄西幼稚園の地に呱々の声を上げたのは、昭和5年(1930)年6月15日です。昭和5年といえば、前年ニューヨークのウォール街での株の大暴落に始まった世界大恐慌の波が日本にも押し寄せ、翌年には日本の中国侵略の出発点となった満州事変が起こるという、世界的に激動の時期でした。

初代園長岩田仲次郎が、自らの教育への理念と情熱から幼児教育への構想をいだき、町の有志の方達の勧めもあって、まだ本庄の町になかった幼稚園の創設を決意して小学校を退職したのが、その3月でした。とは言え、小学校勤務三十数年、清貧に甘んじた一教員が、自力で幼稚園を創立するということは困難極まることでした。現在のように幼稚園が教育体系の中にしっかりした位置付けをされず、文部省や県の補助もない時代です。そういう状況の中で力を発揮してくださった方達がいました。園長は小学校教員時代、放課後に自宅で学習指導を行なっていました。かつてそこで指導を受けた方達です。その方達が中心となり、町中に浄財を募ってくださったのです。それを基金として幼稚園建設が着手されました。

土地については、菩提寺である安養院の境内の東南にあった竹林が提供されました。 安養院先々代の星野仙染師のご好意によるものです。自宅の北側に隣接し、何より町 の中心部にあるという好適地でした。竹林の北、安養院の庫裡との間には広い梅の林 があり、その境には樹齢100年を越す大銀杏がそびえていました。

土地整備にも苦労話が多く残っています。パワーショベルもブルドーザーもない時代、しかも充分な基金もない中、ここでも中心となってくれたのが町の方達でした。長くおつき合いいただいていた古作与吉氏が先立ちとなり、「鳩の会」と呼んでいた学習会の方達も含めて十数名の方達が、連日木を伐り、根を掘り、地をならし……、皆さんが文字通り手弁当で汗を流してくださいました。松崎福治氏の思い出の中にはもっこを担ぐお父様の姿がリアルに残っておられるとのことです。

そして、いよいよ園舎の建築が始まりました。園の南、学校通りの大工さん、榎本さんが担当して、保育室二つをもった東向きの園舎です。正面に玄関、北側にトイレがあり、ささやかなものでしたが、屋根には大きなグルニエを持った当時としては瀟洒な建物でした。

こうして目出度く開園の日を迎えたのが昭和5年6月15日です。定員80名、園長に



現存の最も古い写真で往時の門は東にあった。(昭9年2月)

幼稚園保母2名の幼稚園の誕生を、お骨折りくださった方達はもちろん、町の方々も大いに喜んでくれました。幼稚園として本庄町第一号であり、埼玉県として11番目の幼稚園に大きな期待が寄せられたのです。

初代園長は明治10年生まれ、昔の教師は非常に厳しく、園長もその例外でありませんでした。僕もわたしもむちで打たれたなど言われたものですが、叱られながらその子どもを愛する心と教育に対する情熱は感じられたのでしょうか、慕われたものです。ともあれ遊びを通して幼児は学び成長していくという今の幼児観とは全く異なった幼稚園教育ではありました。

こうして数々の方のお世話を戴きながら出発した幼稚園、それが60年経た今日、また800名を越す卒園者ならびに協賛者の方々のご協力を戴いて園舎が建築された、それを思うとき、この60年は本当に皆様のお力の上に歩んできているのだという感を深くします。そのご厚情に応える道はただ一つ、充実した保育で日々勝負していくことだと考えています。どうぞこれからも、岩田学園にご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

岩田学園「第1回生として」

昭和5年度(第1回)卒 池田文雄

学校法人 岩田学園創立60周年記念おめでとうございます。心より御祝い申し上げます。

小生、昭和5年度卒、幼稚園第1期生の1人です。現在、67歳の老人ですが、産婦人科医として、現役で働いて居ります。

学園創立の頃は、人々の寿命は、40才から45才と云う時代でした。また、本庄市の人口は約1万8千人の小さな町で、道路は全く舗装されて居らず、広い大通りだけに砂利が敷かれて居りました。

学校は、旧制の県立本庄中学校、旧制の本庄町立女学校、それと現在の西小学校の 在る所に、本庄尋常高等小学校と3校が在るのみでした。

この様な時代に、この小さな町に、60年前現在の本庄西幼稚園の場所に、岩田学園が誕生したのです。町で初めての、唯一の幼稚園が誕生したのです。

先見の明あって、幼児教育に目をむけられ、町の幼児の為に幼稚園を創立なさり、小学校入学前の園児の訓導に意を注がれた初代の園長岩田仲次郎先生は、現在の学園長先生でいらっしゃる岩田祥江先生の御尊父さんで、確か髭を生やした一見怖そうな容貌の先生だったと記憶して居りますが、小生一度も叱られたことなく園児にかこまれて「ニコニコ」と微笑んで居られた初代園長先生の御姿が、目に浮かんできます。

小生が園児で、お世話になって居る頃は、私の家は幼稚園とは隣組でして、ごく近い所に在りましたので、私は、時間中に、そっと教室から抜け出て、園の垣根をくぐって、家に帰り、何食わぬ顔で1人で遊んで居ったことが、屢々あったと聞いております。園の若い先生方が、私の姿が見えないのであちこち捜しまわって、御心配なさったそうです。その若い女の先生方の中に、現在の学園長先生でおられる祥江先生が居られた訳です。先日、グランドホテルで御元気な祥江先生に數拾年ぶりでお会いし、感慨無量でした。

最後に、60年の長い歴史を、一貫して幼児教育に徹してこられた岩田学園の益々の 御発展と、諸先生方の御健康をお祈り申し上げて稿を閉じさせていただきます。

昔の友との再会

昭和10年度(第6回)卒 山 中 清

先ず岩田幼稚園創立60周年記念事業が成りおめでとうございます。心よりお祝い申 し上げます。

在園当時の思い出をというお話ですが、半世紀以上昔のこと思い出もおぼろげで、 記憶も薄くなってしまいました。 平成2年幼稚園の60周年記念事業のお話を聞き、これを機会に卒園以来初めての同窓会を催すことができました。丁度還暦を迎えた年でもあり、幼い頃に戻って語り合うことも意義があると考えたからです。すでに殆んどが職場をリタイヤし交際範囲も縮小、孫の面倒をみるといった状況のなかで、幼い頃の友人との再会がこれからの人生にいろどりを添えてくれるであろうことを願い、何人集っていただけるか不安もありましたが思い切って実施に踏み切ったわけです。結果は男子13人、女子6名が出席してくれました。都合で参加できない方々からも驚きと心温まるご返事をいただき、なかには会に援助金や贈り物までしてくれた方もおり、参加者は勿論のこと不参加者とのいろいろな意味での交流が始まりました。

会の方は園長さんを交えて話もはずみ「先生にいたずらしてイチョウの木に縛られたこと」「当時の園長さんはヒゲを生やし大変厳しかったこと」など時の過ぎるのも忘れ語り合いました。また二次会にも多数参加されカラオケに興じ楽しい一時を過ごすことができました。その後はお互いに手紙を交換したり電話をしたりしてと五十数年間跡絶えていた昔の仲間との交流が再開しました。初めての同窓会としては大成功だったような気がします。これも60周年という一つの区切りが私たちの気持を昔に返らせ、会ってみたい、話してみたいという純粋な気持が成功につながったのだと思います。今後も続けてという声が強く、参加者も増えることが予想されます。

これからも交流の輪を拡げ、人生の一つの楽しみ、生甲斐として毎日毎日を大切に 生きていきたいと思っています。

芍薬の絵

昭和13年度(第9回)卒 村山 美恵子

岩田学園創立60周年 まことにおめでとうございます。

それに致しましても唯今の園長岩田先生は、私がお世話になりました昭和12年からお変りないお姿にびっくり致します。

当時は西のみで初代のひげの園長先生は、経営面、事務の様なお仕事をしておられた様です。園児と一緒に遊ぶのは三代目の今の園長先生と他の二人位の先生でした。 二代目の亡き園長先生はいつも玄関から自転車を出してお出掛けになる上品な学校の 先生の様子でした。

園児は制服はなくて皆エプロンをしておりまして、とこやさんの角をまがり、木の 黒塗りの棚の様な門は、時間中は閉められて楽しい園となります。その頃は私の様に 遠くても歩いて通った子供と半数位はねえやさん(お母さんは稀)におくられてくる子供があった様に思い出します。その大人達と岩田先生は亡き御母堂のお話をいつもしておられました。

或る日、思いがけなく大勢乗れる大きな巾広い木製の舟のシーソーが備えつけられ、おすべり、ブランコ二種、砂場と共に施設の良さを誇って居りました。庭は日当り良く南北に長い建物は木造の落着いた二つの教室でした。壁にはそれはそれは美しい絵があり、その額には紅白二つの芍薬に男女の子供の顔がなごやかに咲いていました。これが私にとって強く印象に残る人生最初の情操教育となったのです。後に私の子供に何か画いてとせがまれてそのすばらしさを味わいさせたいと思いましたがぜんぜん表現が出来ず残念だった事を思い出します。

当時台町は男女各一人、今はない久保の橋を渡って赤城屋の篠崎さんとさよならをするとたった一人の為に広いのどかな中山道を岩田先生はコッコッと皮靴を鳴らして十軒通りまで私を送って下さったこと、先生はそれからお帰りになるのですから今思えばもったいない話でございます。

その後私の子供三人も東幼稚園にお世話になりましたが、先日そこを通りましたら それこそ立派な美しい園舎が出来ているではありませんか。その発展は目を見張るも のがございます。しかし私にとって思い出はやっぱり開設当時、芍薬の絵が飾ってあっ たあの岩田幼稚園なのです。園の皆様御健康でますます御発展なさる様、心からお祈 りする者でございます。

ゲンコツ萬歳!

昭和14年度(第10回)卒 山口敏裕

「コツンー!!

初代園長岩田仲次郎翁のゲンコツは有名だった。

ゲンコッには馴れている当時の子供でも翁のそれは、いつまでもチクチクとして一味ちがっていた。幼い仲間の目をごまかしながら、何回となくさすってもなかなか痛みが消えないという極め付けのものだった。

その痛みをおさえる特効薬といえば若き頃の今の祥江園長のやさしい笑顔でした。 今は亡き私の父が小学生の頃、当時教師だった仲次郎先生の教えをうけた。その後、 仲次郎先生は岩田幼稚園を開園され初代園長となられ、私が、そして二代目五郎園長 には我が子二人がお世話になったので園とのご縁は深い。私達親子二代が同じ机で千 代紙を折り、同じ小さな木の椅子に座ったことになる。

いまテレビでお馴染みの東野英次郎扮する水戸黄門を見ていると、眼光炯炯としたお顔や姿が、ありし日の翁にどこか似ていてなつかしい。当時の園児たちは初代仲次郎園長の笑顔はあまり見たことがないはずだが、その教え子を初め数多くの卒園生皆様の温いご支援もあり、立派に完成した園舎を見て、あの世できっと、こわもての顔がにっこり笑って、喜んでいらっしゃると思うと、想像するだけでもうれしい。

ゲンコツ園長萬歳!!岩田幼稚園おめでとう!!心から園の発展をお祈りする次第です。

開園当時の職員として

岩田学園理事長・園長 岩田 祥江

岩田学園の前身、岩田幼稚園が本庄町の有志の方の御後援で現在の地、本庄町上町の一隅に創立され60年の昔から続いていること有難いことでございます。

10年一昔という言葉がありますが60年も前のこと、回想しておぼろげ乍ら書いて見ました。

当時は80名定員で園長他保母 2 名の小さな園で、全町からと申しましても有数の御家庭からお出でになる位でした。あの小さい身体で、台町、諏訪町、伊丹堂の遠い所から往復歩いて通園しました。今考えると大人でも大変だったと思いますが、その頃は歩くことが当り前のことで小学校への方達といっしょに元気にいらっしゃり、私達も一人で来たの、えらいね、と誉めていました。降園も二列に並んで家の近くまで送って居りました。今ほど車も通らないし、歩きながら看板の読める字など読んだり、歌をうたったり、楽しいひとときが持てました。

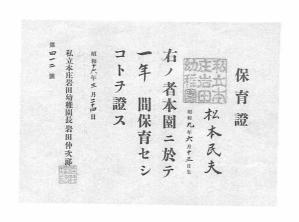
職員は、丸岡静子先生が最初の方でもうお一人は一年位でおやめになり、お名前失 念致しました。本庄駅からも望めたと云う大銀杏が園のすぐ隣にあって、何百羽とも 知れぬ雀の朝と夕べの出かける時とねぐらへ帰った時のさえずりは物凄いものでした。 私は昭和7年から就任しました。

遊具はブランコ6台が安養院様の鐘樓のすぐ下にあり、木製の二側の滑り台が1台、2人乗りブランコ位だったと思います。室内は教師用オルガン2台で歌をうたい、遊戯をしたり、折紙、クレヨンと画帳位でした。紙芝居を見たり、木の積木、玩具などなつかしい思い出です。秋の運動会も庭で、冬の遊戯会も2つの保育室でやっておりました。

その後職員も次々に変わり、柴崎さん、石崎さん、戸塚さん、清水さんなどなど、

その頃は結婚までの腰掛けの職業など云われまして、森先生、横田先生のように長くっとめる方は稀でした。でも園内はそれぞれ友達同士も職員とも和気藹々で、いっしょになって飛んだり、はねたり、滑ったり、転んだり、叱ったり、叱られたり、本当に楽しいものでした。初代園長は昔かたぎで躾にきびしく、あの頃の方にお会いしても、「怖かった」と云われ恐縮してしまいます。

次第に町の方達に、幼稚園と云うもの、幼児教育が普及されるようになり、園児数も増してきた頃、昭和7年9月盧溝橋事件が発端で、第二次世界大戦に進み、園児にも空襲を恐れて就園なさる方が減少し、ある年など卒園なさる方が27名のこともありました。現在こうして平和な幼稚園を考えると、うたた感無量というところです。



右 砂座 巻 ノ 租 岩 六 者 園 田 南 コト 私立本庄岩田幼稚園長岩田仲次耶 昭和十九年 之月二十四日 本心月間保 保 チ證 育 本園ニ 松本悦子 證 育 悦子 於 セ テ

原子八大規 私立本庄岩田幼稚園長岩田仲次郎 コ 右 箇 1 保 年 者 チ 育 本 證 間 保 園 ス 證 育 = 紀 セ 於 テ

第2部 戦時下の幼稚園

想い出の小箱 岩田幼稚園

昭和15年度(第11回)卒 高橋福八

「岩田幼稚園」……このひびきは私達にとっては心のふるさとであり、人生のスタートラインなのです。

今幼稚園はあちこちに出来、又幼稚園に通うことはごく普通のことになりましたが、 戦前、幼稚園と云えばそれは「岩田幼稚園」のことであり、そこに通っている子供達 は本圧でもエリート?だったような気がします。

台町に住む私は本庄の端から端まで一人で毎日中山道を歩いて通いました。たまに遅刻しそうになると店の番頭さんが自転車に乗せていってくれました。こわいこわいとがの園長先生に「気を付け!の時はアゴを引きなさい」と何度云われてもアゴを引く動作が出来なかったこと。我家の愛犬「エス」が幼稚園迄一緒についてきてしまい、どうしても帰らず門の前で犬をだいて泣きだしてしまったこと。ギンナンの実を一杯いただいて帰ったこと。ギンギンギラギラのお遊戯。そして私の初恋の先生、現在の岩田祥江園長せんせいがしばらく見えなくて心配していた処、ある日突然赤ちゃん(岩田龍司先生)をだっこして表れた時のショックとやきもち。エトセトラ何もかもがなつかしく楽しい想い出の小箱、それが「岩田幼稚園」なのです。

あの日から五十数年。あの時の恩師のために、あの時の赤ちゃんと一緒になって創立六十周年記念事業に参加出来たこと、こんな幸せなことはないと心から感謝しております。

おさななじみの思い出

昭和17年度(第13回)卒 金井善一

第13回生として岩田幼稚園へ入園したのが、昭和17年4月でありました。昭和16年 12月8日に日本がアメリカのハワイ真珠湾攻撃で始まった大東亜戦争(第二次世界大 戦)も、未だ日本の本土には戦争の影響もなく、物資もそれ程不足を来たさず、毎日 楽しく岩田幼稚園へ通園しておりました。

当時は、今日ほど幼児教育が盛んでなく、父母の間でも教育については余り関心を持ってはいませんでした。本庄で唯一の幼稚園でありましたので、子供心に覚えていたのでは、結構、遠方の諏訪、台町、伊丹堂(現在の末広町)から30分以上かけて徒

歩で通園していました。

幸い私は泉町であり岩田幼稚園には7分程で行ける近い距離にあり、中山道を渡り 学校前通りを安養院の塀伝いに東に行き、安養院の山門前、上街会館前を通り、中島 理容店の角を北に入り、岩田幼稚園へ通園する毎日でした。

制服は無く、各人思い思いの服装でお弁当を持参し、エプロンだけは掛けていたように覚えています。

園長先生は、岩田仲次郎氏で威厳があり、私達園児にとっては怖い存在でした。それに対し、二人の女の先生、岩田先生(現園長)と石崎先生は優しく面倒見のよい先生でした。

幼稚園の教室内では、ぬり絵、折り紙、遊戯、歌等を教えていただき、庭に出ては ブランコに乗ったり、砂遊びに興じる毎日でした。

やがて一年間の幼稚園生活も終りに近づき、昭和18年3月在園記念の写真を撮りましたが、今、その写真と68名の配列名簿の名前を見るにつけ、49年前の面影がありありと浮かび岩田幼稚園に在園した当時のことが懐かしく思い出されて参ります。

終りに幼稚園に相応しい「おさななじみ」の歌の一部を記して思い出の一端といたします。

「おさななじみ」

- おさななじみの思い出は 青いレモンの味がする とじるまぶたのそのうらに おさない姿の君と僕
- 2、お手々つないで幼稚園 つみ木ブランコ紙芝居 胸に下ったハンカチの 君の名前が読めたっけ

超低空で旋回する飛行機

昭和20年度(第16回)卒 岩田龍司

今でも何かの時に必ず浮かぶ光景があります。幼稚園時代のことを思い出すということはほとんど稀になっているにもかかわらず、というより幼稚園時代の思い出といういものから切り離されて、それは戦争文学を読み終った時であり、またテレビで太平洋戦争のドキュメントをみている時であったりもします。ささやかなひとこまでありながら、私の戦争に対するイメージを作ったものと言えるものであったようです。

多分1945 (昭和20) 年のことであったろうと思います。当時、今の本庄西小にあった木造校舎の一棟は兵舎になっており、また今の西中の南半分にあった女学校のテニ

スコートにはサトウキビが植えらえていました。校庭で軍用トラックの幌のついた荷台から長いロープを延ばして、大きな気球を空高く揚げているのを、いつまでも見ていた記憶もあります。家の前の通りで、短剣をベルトに下げて歩いて来る兵士に向かって直立不動の姿勢で敬礼をし、会釈するような形の答礼を受けて、何だか誇らしい気分になったこともあります。家の横の露路で、青空をバックに遠くゆっくりと飛ぶB29の白い機体が見え、それを高射砲の白い弾がいくつもすーっと追って届かずに途中で炸裂する(音は全く聞こえません)光景も鮮かに残っています。一緒に見ていた近所の人が「伊勢崎の高射砲部隊だ。」と呟いていました。これらの光景は、そのまま8月14日、防空壕の中で聞いた空襲の地響きと、翌日中島の床屋さんのラジオの前にうなだれて敗戦の詔勅を聞いている大人達の姿の記憶にそのままつながっていくのですから、これからお話しするでき事も多分敗戦間際のことと思われます。

その日も快晴でした。保育室にいた私達の耳に、いきなり低空飛行の轟音が響いて通り過ぎたかと思うと、すぐまた戻ってくる気配。私達園児は一斉に外に飛び出しました。途端に視野一杯に単発の飛行機が飛びこんできました。飛行機をこんなに近くで見たことはありません。迷彩を施した緑色の機体は頭上を越えたかと思うと、また戻ってきて、今度は私達の頭上を旋回しはじめたのです。ぐっと横に傾いた機体の風防の中に飛行士の顔の表情まではっきり見えます。私達は園長ともども「バンザイ、バンザイ」の大合唱を始めました。それまで聞きなれていたB29の編隊の、あの腹の底に響く爆音と違って、轟々と鳴るエンジン音に私達の精一杯の叫び声も聞こえないくらいで、私達はもう夢中でした。

ものごころつく頃になって、あれは一体何だったのだろうと考えました。八町八反に飛行場の整備のため勤労動員に行った先輩の話では、貴重品の飛行機は横穴を掘って隠したとか。松根油のための松の根を掘ったその人は、飛ぶガソリンなどありはしなかったと言いました。そういう状況の中で、あの飛行士は何のために私達の頭上を何度も旋回したのでしょうか。

しばらくの間は、敗色濃く窮乏生活に喘ぐ国民に、日本軍の健在ぶりを示すためのデモンストレーションだったのだろうと解釈していました。ところが後になると、どうもそれではおかしいと思うようになりました。もしそういう目的であれば、もっと宣伝効果の高い場所が他にある筈です。そう考えて、あれはもしかすると出撃命令の下った兵士が最後の別れをしに来たのでないか、と思うようになったのです。あれは特攻隊として出撃する兵士だったのか、するとあの飛行機は零戦? これは荒唐無稽な想像でしょうか。でもそう考えると、あの風防ガラス越しに見たパイロットの顔に一種つきつめた悲しみがあったように思われてくるのです。岩田幼稚園出身であった

かどうかは問題でなく、そこにまだ社会を知らない無垢な子供達がいるゆえに、最期を迎える兵士が、いわば別れを告げに来た。その相手が両親でなく(多分故郷は遠くにあったのでしょう)、愛する女性でもなく(まだそういう人にめぐり合うには若すぎたかもしれない)、私達園児であったこと、それが私を悲しい思いにします。大義名分のために死んでいく若者の姿をしっかり記憶していこう、それがあの若者の気持に応えることだ、今私はそんなふうに考えています。

皆様のお便りから

岩田幼稚園の思い出

昭和17年度(第13回)卒 所沢市 立 野 政 雄

今から何年前のことだったろうか。確か2年間お世話になったと思います。 思い出すのも、遙か、遠い彼方のことである。しかし、はっきりしていることがある。それは、園長先生が、躾ニきびしいが、やさしい、白いおひげのおじちゃん先生であったこと。又、毎日、通園するのが、楽しくてしかたがなかったこと。子供心に、園庭が広く、皆んなで走り廻ったこと、等が、懐かしく、思い出されます。

皆様のお便りから

昭和17年度(第13回)卒 熊谷市 新井景子

岩田幼稚園の事は時々子供達に話して懐かしんで居りました。今度思いもよらずお便りを頂き、半世紀(?)近く前の事を思い出しました。

園長先生の事など、次々思い出されました。戦争が激しくなる少し前の幼稚園時でした。小学校3年の夏が終戦でした。

昭和15年度(第11回)卒 深谷市 真下君子

この度は六十周年をお迎えなされました事、心よりお慶び申し上げます。

私も昭和16年3月の卒園迄の3年間、と申しましても、両親は私の兄故裕(7年生まれ)を入園させましたが、私が毎日ついて行きましたので、私も入園したいのかと感違いしまして入園させたらしいのです。私の方は、兄が幼稚園には汽車があるよと言いましたので、毎日園舎の西側の窓から、いつ汽車が来るのかしらと眺めておりましたのをくっきり覚えて居ります。大変お世話になりました。いまでも目をつむって居りますと、初代園長先生が園舎から階段を降りてこられるお姿や、シーソーゲームの所でのお母様のお姿が懐かしく思い出されます。

これからもどうぞ岩田幼稚園が増々発展なされます様、心よりお祈り申し上げます。

昭和18年度(第14回)卒 本庄市 中村和代

同窓会のような形で卒園生に逢いたいと思います。

昭和42年度(第14回)卒 本庄市 小関昭彦

小人数ながらも、できれば同窓会も実行して頂ければと思っています。 私は卒園以降離れ離れになった方が一人いる為、暫くぶりにお会いして話もしたい 心境でいます。暫くぶりにおあ会いして話もしたい心境でいます。

宜しくお願いします。

第3部 戦後そして 第二岩田幼稚園設立へ

訓練

昭和21年度(第17回)卒 入 和 男

岩田学園創立60周年、おめでとうございます。

当時の「思い出」をと、お誘いをうけましたが、卒園したのが昭和21年3月、遙か遠い昔なものですし、頭の中の「さび」がかなり厚くかたまってしまっていますので、このさびを少しづつおとしながら、思いつくまま綴らせていただきます。

「防空頭巾 |

朝、家を出るときには、「防空頭巾」と「カバン」をタスキ掛にして、胸には布に 大きな字で、住所・氏名・年令を書いた名札をさげ元気よくでかけました。

園では、机に向って折り紙・絵などを書いたりしている。こんな時突然に大きな声で「クウシュケイホウ」と号令?がかかる、と同時に「ガン」「ガン」とバケツをたたく音がけたたましく響きわたる。すると、皆、一斉に背中の防空頭巾を冠り庭にとびだす。次に地面に伏せをする。全員が同じ状態をとると、「クウシュウケイホウカイジョ」の号令が出る。全員立ちあがり服についている土をはらい、班別に整列して、教室に戻る。そして、何事もなかったかのように席つき勉強をつづける。(かなりうるさく、騒いでいたことでしょう。)こんな訓練をしたことがありました。

「折り紙」

今でも、ときどき折り紙をすることがありますが、これは幼稚園で覚えたものです。 折っているとき子供たちに「年をとったので『ボケ』予防のために指を動かしている の」などと冷やかされることがあります。現在では紙が豊富にありますが、当時は戦 時下で物資が不足していた時なのに、先生方はどこからどのように「折り紙」を用意 したのかを考えてみるとき、当時のご努力に対しまして、あらためて感謝いたします。 今は平和で、幸福な時代ではないでしょうか!

「ほめる」と「叱る」の上手な使い方 ~幼児教育のプロ~

昭和24年度(第20回)卒 岩田学園評議員

加藤玄静

私の尊敬する、ソニーの名誉会長であります井深 大氏は、口癖のように「教育は

幼稚園では遅すぎる」と言っておられます。最初の内は気にも止めずに聞いておりましたが、日本を代表する経営者が、幼児教育に対してこれ程激しく情熱を注いでいるのは何だろうと、その後は進んで講演を拝聴するようになりました。

その中で繰り返し、自分の生涯の道を開くきっかけは、「三つ子の魂百まで」の通りであると、ご自分の経験の中からの幼児教育の重要性を説いておられました。

そんなある時、自分の幼稚園時代、そして子供の幼稚園時代を思い浮かべてみましたが、岩田幼稚園は親子三代に渡る一貫性のある教育方針。とりわけその柱の一つであります、「ほめる」と「叱る」の上手な使い方、親身になって「しつけ」をして下さった先生の多かった事は、大人になった時、親として社会人として非常に役立っていました。

適当に放任主義であり、適当にスパルタ主義であった、42年も以前の事が走馬灯のように今でも鮮明に思い出されます。この記念誌の原稿を書きながらも次々とその当時の出来事が昨日のように浮かび、スペースがいくらあっても書き尽くすことが出来ません。

同期の卒園者の思いもきっと同じであり、「良かった」と感謝していると思い、代表して筆をとらさせて頂きました。

第二岩田幼稚園設立の頃

岩田学園理事 岩田龍司

1950 (昭和25) 年、73歳を迎えた初代園長岩田 仲次郎は現役引退を決意します。日中戦争、太平 洋戦争、敗戦、戦後の混乱から朝鮮戦争へ… 園 長在任の20年間は激動の時代であり、これからよ うやく復興に向かう時期でもありました。

第二代園長岩田五郎は、初代と同じく小中学校 で二十数年の教職経験を持っており、幼児教育に 意欲的にとりくんでいきました。その一つは、戦 後の新しい教育を積極的にとり入れようとする姿 勢として示され、職員に講演会・研修会をすすめ 幼児教育の新たな実践が行なわれていきました。 また、園長就任以来、県北地区代表として県私立



引退を告げる初代園長のあいさつ



第二岩田幼稚園 第一回卒園児 (昭30.3.24)

幼稚園協会の理事をつとめ、以後10期20年間その任を果たすことになります。その間推されて副会長にも就任しています。第二代園長の意欲的な姿勢はもう一つの面、教育環境整備という形でも現われました。後の資料の卒園児数一覧を見てわかるように、'50(昭25)年から入園児が爆発的に増え始めました。戦後のベビーブームの到来であるとともに、幼稚園教育の普及の結果でもありましょう。'50(昭26)年には52名だった卒園児が、翌年には142名となっています。その入園希望を保証するため、園長は'50年に園舎を増築しました。安養院からお借りする園庭が少しずつ広がっていったのは、それが原因となっています。

そういう状況の中で、園長は新しい幼稚園の増設を構想していきます。スクールバスが市内を回っている今日では想像もつかないことでしょうが、当時の幼児の住所には本町、台町、諏訪といった町名がみられます。現在の東台、日の出に当たる地から通ったわけで、片道2km以上歩くことになります。先生は十間通りまで送ったのですが、その帰路ひとりになるとその遠さを実感したと言っています。現在の車社会に生きる私などには、先生と幼な子達が半分遊びながら家路に向かう情景は、牧歌的な夢のようなものに見えて、非常に貴重な体験ができたと羨しささえ覚えるのではありますが(私の中学時代は今の東小学校にあった中学校に通ったのですが、そうすることで町の小道、抜け道まで覚えて、それが後年本庄の街に対する愛着を生んだという思いがあります。)それでも、日常の生活空間に幼稚園があれば、それに越したことはありません。園長の想像力・構想力は貴重だった、よくあの時に決断してくれたと思います。あと数年経てば高度成長期に入ります。そうなれば1000㎡の土地を購入することは困難となっていたでしょう。

園長は、田島宗平氏などのお世話で1953 (昭和28) 年、小林菊次郎氏より現在の地を購入、まだ小学生だった4人の子どもたちも入れて一家総出で土地整備が始まりました。当時は東側に松本氏宅、南に農家の納屋があるだけ、周囲は畑地で広々としていました。周囲にめぐらした四つ目垣のもとに、風に吹き寄せられた白菜の葉や紙くずなどがたまっている情景が、今でも目に浮かびます。夕方から夜にかけては怖いくらいの土地でした。家族全員で連日自転車とリヤカーで通ったことなど、懐かしく思い出されます。

園舎は戸谷建設さんが建築、1棟2保育室の建物が完成して、'54(昭和29)年7月1日に「私立本庄第二岩田幼稚園」として開園しました。その日は、ちょうど本庄市の市制施行の日であり、新しい幼稚園は、本庄市とその歩みを同じくすることになりました。最初の年は、遠くてもこれまでの幼稚園の方がいいという希望者もあり、園児は62名、教員は2名の出発でした。はじめのうちは園長の家族が交代で泊まりに行ったりもしました。

やがて園児の増員ははげしくなり、'55 (昭和31)、'57 (昭和33)、'59 (昭和35)、 と園舎を増築、最終的には3棟6保育室、定員120名となっていきます。近所に家が 建ち、西隣りに工場もできて賑やかになりました。園児降園後は園庭に小学生の遊び まわる姿や、おとしよりがお孫さんと遊ぶ姿がみられました。園長は緑を愛し、園庭 はアカシヤやポプラ・桜など木陰を作っていました。

現在、本庄市の西半分には幼稚園がいくつもできましたが、東半分とくに街中にある幼稚園は一つだけです。幼児教育を保証する場としての存在意義が、ますます大きくなっていくことが期待される幼稚園であると言えましょう。

幼稚園のおもいで

昭和29年度(東1回)卒 照 井(小渕)文子

幼稚園、といえば、もう何十年も昔のことで、何も覚えていないような気がしていました。でも、何か書いて、ということなので、記憶をたどってみると、断片的な事ながら、多少残っておりました。

私の家は、当時駅に近い堀川病院の近くにあり、4人の姉妹で、姉が一人、私、妹二人とあり、全員岩田幼稚園にお世話になっております。姉は、本町の家から、今の西幼稚園のほうに通っていました。駅の近くから西幼稚園のほうまで歩いて通ったのですから、昔は子供でもそれが当たり前だったのでしょうか。私も二年後ですが、最

初は西幼稚園まで通っておりましたが、いつ頃かは記憶していないのですが、台町に新しく幼稚園ができてそちらに移ったのです。とても近くなりました。その頃は、幼稚園のまわりも畑がほとんどで、西幼稚園が人家に囲まれて狭苦しい感じだったのが、開放的で広々として、ホッとしたような淋しいような感じでした。運動会も、こちらでしたのを覚えているので、二学期からだったのでしょうか。新しいお友達も増え、新しい遊具もあり、うれしかったことでしょう。今は、大きな桜の木が四月になると、いっぱい咲きますが、当時はまだ苗木で殺風景なものでした。今でも岩田は、徒歩通園の子供を途中まで、先生方が送って来て下さいました。まだあの頃は終戦後十年も経てない頃でしたので、親も食べるのに必死で、今のように送り迎えなどする余裕もないし、自動車などほとんど走ってない状態だったから出来たことなのかも知れません。それを考えると、今の子供がいかに悪い状態で生活しているか、よくわかります。昔は、広場はちょっと歩けばあったし、大人に干渉されないで子供同士で遊べる場所はいくらでもありました。今から考えると、悪い事と思えるような遊びもずい分したような気がします。

幼稚園に行っていて、楽しみと言えば、やはりお弁当の時間でしょう。昔はおかずといっても豪華な物などなく、玉子焼きか、のり弁くらいのものでしたが、冬のお弁当を暖めるために何か引き出しのようなものにお弁当を入れた記憶があります。朝幼稚園に行くと、その引き出しにカバーごと入れたのでしょうか、お昼には温かなお弁当が食べられました。今はどんなふうにして温めているのでしょうか、聞かないうちに子供は卒園してしまいました。

子供も少なくなり、幼稚園経営も大変な事をよく聞きます。これからも地域に溶け 込んだ幼稚園として、がんばって下さい。

回想PTA結成の頃

初代(昭和35年度)PTA会長

岩田学園評議員 堀口久枝

開園六十周年おめでとうございます。

私が初代PTA会長を仰せつかり、どの様に活動し運営したのか、記憶がうすれ、 忘れてしまったと言うことが事実のようです。役員の皆さんとよく集まり、暗中模索 でディスカッションをした遠い記憶が断片的に想い出され、小さな椅子に坐り話し合 いをした思い出と重なります。

PTAで贈った大きな積木は、何百人何千人の園児の遊具となったことでしょう。 遊びを通して、お友達の輪をつくり、人間として我慢することを学び、そこから小さ な心に生まれる喜びや葛藤を、積木ひとつひとつの染みや傷あとが語りかけてくれる ことになる、その想像は園舎で遊び回る園児たちの甲高い声と交錯して、心が弾む思 いです。

遊び場の狭い園舎は、雨の降る日の子供達の張りのない声が…。屋根付きの遊び場 を贈ったことも遠い想い出のひとつです。

今、新しい東園舎は、明るく広く、雨降りでも楽しく遊べる立派な園舎になりました。ここ二十年の月日の経過の中で感じられることは、時代の繁栄で生活も物質的に豊かになったことです。素朴な子供たちも少なくなり現代っ子ばかり。若いママ、おかあさん、育児は大変でしょう。しかし、小さいうちに、良いこと悪いことをしっかり我が子に教えてやってください。お願いします。

昭和30年から40年の頃の幼稚園 - 旧職員として

岩田学園評議員 島 方 千 鶴

昭和30年から40年にかけて、当時の本庄岩田幼稚園にお世話になっておりました。 創立60周年という事ですが、丁度その半ばの10年間に当ります。

先ず、私が奉職して間もなくの事です。病の床に着いておられた初代の園長先生が お亡くなりになりました。明治堅気のとてもきびしい先生だったとか。

次に思い出されるのは、何といってもPTAの誕生でした。確かこれは、創立30周年記念式典の行われた少し前のことだったと思います。PTAができたお陰で、私達職員は、運動会やお別れ遊戯会では本当にお世話になり助かりました。

又、当時の幼稚園は、現在のようにすべてが整備された環境の中で、幼児教育が行なわれていたという訳ではありませんでした。今迄古いオルガンのあった所に、或る日ピカピカ光った黒い大きなピアノが置かれて大喜びしたり、又、テレビの時代に入り、教育テレビの幼児番組を取り入れる様になったのも、この頃からでした。

こんな時代ですから園長先生も大変です。好天の続く秋になると、庭の西側に建っていた園舎の屋根に上り、トタン屋根の塗り替え作業をやられる事もありました。その建物のすぐ近くに、真っ赤に実をつけた古い柿の木がありました。その実をついば

みに来るカラス。麦ワラ帽子をかぶった園長先生に、「先生あぶないよー。気をつけてねー。 と心配そうに見上げる子供達…。

今の様に立派な建物ではありませんが、60年という歳月の流れの中には、こんな時代もあったのだと、懐しく思い出しております。

第4部 学校法人への発展

学校法人設立の頃

岩田学園理事 岩田龍司

学校法人岩田学園は、昭和5年(1930年)に私立本庄岩田幼稚園として創立されました。その間の事情は他の項で触れたところですが、当時幼稚園は個人立というのが普通でした。幼稚園が学校教育法により位置付けされ、さらに幼稚園設置基準や幼稚園教育要領が制定された1950年代に入って、法人化が強力に推進され始めました。昭和39年(1964年)の「幼稚園教育の振興について」という、文部省の各都道府県知事・教育委員会宛通知に次の一項があります。

「幼稚園を新たに設置しようとする私立幼稚園の設置者については、原則として学校法人とすること。なお、既存の私立幼稚園のうち、設置者が個人であるものについては、できるだけ、学校法人とするように指導すること。」

この通知に基づいてということなのでしょう、県は法人化のための準備という名目で、個人立幼稚園への財政補助を数年にわたって行ないました。それを受ける園長には、また園長としての苦悩がありました。法人化は寄付行為が前提です。これまで必死の思いで築いてきたものを、個人の手から放さなくてはならず、万一の場合は県の財産に移管しなければなりません。園長の中には長い葛藤がありました。その果てに法人化を決心したのです。決心してからは一瀉千里でした。理事・評議員・監事には幼稚園にご好意を持ってくださる方が付いてくださいました。私は法人化の手続きを担当し、園長と共に何度も県の総務部学事課に足を運びました。そこでの話を通じ、ああこれから県の指導の下に入るのだなと実感したことを記憶しています。こうして県の許可がおりたのが昭和55年(1980年)12月です。途端に県への提出書類が増え始めました。園児数調査、教諭の調査、事業計画、予・決算報告等、園のすべてが県に把握される仕組みになりました。と同時に理事・評議員・監事の皆さんに関っていただくことで、幼稚園に新しい風が吹き込んできました。「子供の楽園」としての幼稚園が歴史と伝統の上に、あくなき新しさへの模索を組織的・制度的に確立する体制ができたわけです。

幼稚園の法人化と西幼稚園の新園舎建築は、創立50周年を期に行なわれました。それは、いわば第二代園長の生涯の総決算とも言うべきものでした。今年、東幼稚園の園舎建築が創立60周年記念として行なわれたのは、 ひとえに理事、評議員、監事の方々が肩に荷を負ってくださったからでした。「日々新たに」の精神で、学校法人岩田学園の未来が大きく広がっていく態勢の中で、幼稚園は園長はじめ職員一同のたゆまぬ努力で、今日から明日への一歩を更に踏み出しているところです。



西幼稚園新園舎落成(昭57年1月)

園舎建築の思い出

㈱第一建設 会長 坂 上 秋 作

昨年の3月、平成2年度で、本庄市立南小学校の増築工事が竣工致しました。その校舎の道路面いっぱいに子供向けの絵が描かれて居ります。それを見た人達が、「いいもんだねぇ。こうして絵が描いてあるということは、学校が柔らかく見える。」「しかし世の中も変わったもんですねぇ。」などと、そんな声を耳にした事があります。それより十年も前に岩田学園西幼稚園園舎新築工事の折、正面の中央に下から屋上まで、構造上出来た大きな壁に園児の喜ぶような絵を描いたのです。図柄、色を見た時私は素晴らしいものだと思いながら表門の方へ歩いて行き、振り返って遠くから見た時二度びっくり。園舎の色、階段の屋根の色、そしてこの壁の絵、実によくマッチしている。これならば幼い園児達も遊園地へでも入って行く様な気持ちで、喜んで入って行けるなあと、私は私なりの感銘を覚えました。図柄と色と幼児の心を一つにする幼児心理学でも学んだのではないでしょうか。

後になってわかった事ですが、この壁を作る事も絵を書く事も最初から西幼稚園の 千代田先生の案であったと知りました。先生はこれだけの事を建築の設計以前から考 えて、その案により設計したという事を知った時、私はこれからの建築は用途に応じ 回りの環境により色々考えなくてはと、良い勉強になりました。千代田先生有り難う ございました。先生今頃になってやっと公立の学校が外壁に絵を描く様になりました。 こうしたセンスというものは、年齢ではないという事を事実でこの私に教えてくれた のは先生です。生涯忘れる事の出来ない事でしょう。

西幼稚園の工事を施工するに当り、御協力をいただきました安養院の御住職様、上 町の自治会の役員の方々、それに藤波時計店様に、有り難うございましたと、紙面を

『私の昆虫採集記』刊行の頃

岩田学園理事 岩田龍司

本庄西幼稚園園庭に昆虫標本室となっている建物があり、標本箱が3列に並んで個かけられています。蝶・蛾を中心としたものですが、蝉・蜻蛉・甲虫類など、整然と留められた姿は、素人の私などは圧倒されてしまうほどのものです。

幼児達はまず身のまわりにいる金魚やかたつむりや犬や猫の名をおぼえることで、自然への関心を持つと言われます。人間はことばによって考えるという哲理が素朴な形でここに表われています。私の経験の中でも、それまでトンボと呼んでいたものが、オニヤンマであり、シオカラであるということを知った時の感動が鮮やかに残っています。現在の子供達は虫の名をほんとうに知りません。それは信じられないくらい知らないのです。蝶が頭の上に飛んできただけでこわがる高校生がいるほどです。それくらい自然が貧しくなっているということであり、それくらい自然を相手に遊ばなくなってきたということなのでしょう。幼稚園でも昆虫の好きな先生がいて、手にとって見せてやれば、子どもたちの自然に対する興味、関心は大きくそだっていくということは毎日の保育の中で経験しているところです。自然と人間の共生が地球的規模で課題となって現在、昆虫標本は幼児の教材として大きな意味を持つものと言えるでしょう。それは園庭の草花や果樹などについても言えることであります。

蝶を追って50年、第二代園長の捕虫網を持った姿は、息子である私達に親しいものでした。晩年になって父は昆虫採集に関する思い出を手記として書き始めました。親しい人、趣味を同じする人に、自筆の手記をコピーして渡すつもりだったようです。たまたま私が高校で生徒会の顧問として生徒会誌の編集・刊行の指導に関っていたことで、自費出版したらという着想を得ました。父は喜びました。保存のよいもの、思い出深いものをグラビアとして写真に残そうと決め、撮影は千代田光弘君が担当しました。1983 (昭和59) 年の秋のこと、もう9年経ちます。

こうして、クリーム色の地に乱舞する蝶の油絵(これも父の筆になったもの)を飾った表紙の、210ページの『私の昆虫採集記』ができました。でき上って見ると、そこには昆虫の紹介というより、昆虫を追う父の楽しそうな姿、興奮している姿が浮かび上ってくるものとなっていました。

「蝶道とはこんな素晴しいものだったのか、ゆっくり観察できた。まだ5月初め蝶

も余り多いシーズンでもないのに、ここだけは山の下から吹き上げられるように後から後から絶間なく流れるように通り過ぎるのもあり、花などで少し遊んだり、仲間と戯れたりし乍ら通り過ぎ樹林の中へ消えて行く。」(赤城山麓深山のヒメギフ蝶探し)

父と同行した回数は少ないのですが、それでも こんな文章に接すると、生前の父の姿が生き生き と浮かんできます。せっかく採集した蜂に逃げられ、追いかけ廻したあげく、草の上にへなへなと 腰を落とした姿、初めてクジャク蝶を捕った時の 驚きに息をつめている姿、雨の中下山中、車に拾



われて人の情にふれた時の感動等、それらがページごとに書かれていて、それは巧まずして一つの人生を定着したものという観を呈しています。

園児たちにそこまで理解を求めることは無理な話です。しかし、その情熱があってはじめて標本室に蝶が並び蜻蛉が並んだ。それを見た園児たちが、そのうちの一つでも名を覚えてくれるか、或いは日々の生活の中で蝶や蜻蛉を目で追ってくれるかすれば、第二代園長の心は受け継がれたと言えるでしょう。『私の昆虫採集記』は標本の背景にある岩田五郎の心の記録として、岩田学園の一つの記念碑として、これからも大切にしていきたいものと思っています。

新園長として

岩田学園理事長・園長 岩田 祥江

昭和60年2月18日、先代五郎園長の死去により、職を継ぐことになり悲しみを嘆く間もなく、園の遊戯会、卒園式、更に学園葬の準備に追われ、県への届け、提出物などで只々夢中で過しました。

先々代のかげで、先代のあとから、園児と共に遊び、数をかぞえ、歌ったり踊った りして来ただけの非才の私は、園長としてやれるかととても心配でした。

皆様方の御指導、御支援をいただき、どうやら過してまいりました。埼玉県内でも 県北の岩田学園は、保育にも、経営経理でもしっかりした幼稚園と、県でも私学団体 からも折紙つけられ信頼を受けて居ります。その園をしっかり守り育てて、その名を 汚さないようするのが私のつとめと思ってまいりました。

60周年事業を推進させてくださった皆様のお力で、立派な園舎も竣工し、東西幼稚園の園長として、「こどもの楽園」をモットーとして、次代を背負う子宝を守り育て、岩田学園が60年の伝統を持ち、同時に新しい時代の保育をして、誇れる実績をもつよう進むことが、皆様への御礼とも考えて居ります。

今後共皆様の御支援御協力を心よりお願い申し上げます。

創立60周年記念事業園舎建築のこと

岩田学園理事 岩田龍司

私立本庄岩田幼稚園・私立第二岩田幼稚園が学校法人として再出発したのは、1980 (昭和55) 年です。それは創立五十周年を期して行なわれたものであり、その記念事業として本庄西幼稚園の新園舎が完成したのが、1982 (昭和57) 年です。その完成を待つかのように、第二代園長岩田五郎は世を去り、第三代園長が就任します。いわば50周年は、岩田学園にとって大きな節目となった年でした。西幼稚園の明るく広い保育室を見るにつけ、東幼稚園も早く同じ教育環境にしたいという思いが強まります。しかし、西幼稚園園舎建築に際しての多額な借入金をかかえる学園の経済を考えると、新たな園舎新築はずっと先まで待たなければならないだろうという思いも同時に湧いてくるのです。そういう意味で、60周年はささやかに過ぎていくであろうとの漠然とした予感がありました。

その予感を大きく覆すことになる爆弾発言がなされたのが、1989 (平成1)年7月30日の理事会・評議員会の席上でした。堀口久枝評議員から、東幼稚園園舎の新築の可能性について打診された私は、基金面での困難さを報告したところ、それに対して、「私たちでやろうじゃありませんか。」という言葉が返されてきたのです。内心動顛した私は、それでも表面的には、「幸い今度は創立60周年にも当たっている年で…。」とか何とかお答えしたのですが、話はそれで決まってしまったのです。10月2日の理事会・評議員会では創立60周年記念事業として次の三つを行なうと議決されてしまいました。1、記念誌の発行2、同窓会名簿の作成3、本庄東幼稚園園舎の新築の三つです。理事・評議員がメンバーとなって推進委員会が発足したのもこの日です。

目眩めくような日々が、ここから始まることになります。本庄市を支える多才な理事・評議員の方達のアドバイスを戴き、時には(というより、多くは)叱咤激励を戴き、一方県の学事課へ出向いて、園舎建築とそれに伴う定員増の手順を確かめ、財団、

私学共済を訪れて、融資の限度額を確かめ、再び学事課で文部省補助金の希望を表明 し、県の私学振興資金の融資を要請し、他方、これまで無かった同窓会名簿作成の準 備のため卒園児名簿の整理をし、年度ごとに作成を依頼する方の候補を選定し、とに かく常に仕事がまちかまえているという状況に陥ったのです。

はじめの一年間は、名簿作成のための準備で手一杯でした。園舎建築に向かって、 まず業者が決定されたのが翌年の8月の終わり、真下建設と八木建設に合って具体的 な話が始まったのは1990(平成2)年9月14日でした。間もなく新園舎のプランが出 来、1991 (平成3)年1月始め、設計原案が確定します。続いて見積りの検討に入り ました。当初、その金額は莫大なものになりました。それが推進委員会の幹事会との 話し合いで劇的な展開をして1億2千万円に定着したのが、4月9日でした。23日に は契約書にサインし、正式に建築に向かって出発することになります。工期は7月よ り12月一杯ということでした。

これと並行して、寄付金募集活動が始まりました。趣旨書、申込み用紙の封筒詰め の作業が何日も行なわれ、推進委員の方達の快活な言葉が、西幼稚園会議室に夜遅く まで響いていました。この寄付金募集には実に沢山の同窓生をはじめ市の内外の方が 応じてくださいました。推進委員の個人的お願いもあって、最終的に875名もの方達 が浄財をお寄せくださり、その金額は2,100万円にも達しました。その方達のご厚情 に支えられて建築は進められました。

建設会社の責任者の方の誠意ある対応についても、ここで落とす訳にいきません。 設計を担当した真下建設建築部の岡田正課長、施工の責任者である八木建設の八木孝



新園舎と園児たち

明専務取締役、工事部の吉橋昇課長、この方達は、とくに工事が始まってからは、週一回必ず施主との打合せの時間を設定してくれて、工程の報告、工事内容に合わせた施主の要望等、綿密な打合わせを行なってくれました。立派に完成した園舎は、その成果でした。秋の長雨で大幅に遅れた日程も回復させて、建物は12月末に完成、引越しも年内に済ませることができました。

かくして、園児達は三学期から真新しい、ピカピカの園舎に入ることができました。 工事用フェンスの金網越しに興味津々の眼差しでのぞいていた園児達がどんなに喜ん だか、言うまでもありません。

文部省・県・財団への書類作りに追いまくられて、ゆっくり感慨に耽るゆとりもありませんでしたが、今、目の前にそびえる新園舎を前にすると、3年前からのことが夢のように思われます。東幼稚園の園舎改築はまだ当分先のことと思っていたのが、あっというまに実現してしまったのです。実現してしまったというと正確ではありません。実現させてくださった推進委員の皆様の全く無報酬の献身的なお力添え、その呼びかけに快く応えてくださった同窓生始め沢山の方々、その方達のお気持を裏切らないよう、岩田学園は渾身の努力をしていかねばという思いが湧き上ってきます。本当に有難うございました。

東幼稚園園舎建築に想う

真下建設㈱取締役社長 真 下 恵 司 昭27年度(第23回)卒

学校法人岩田学園が創立60周年を迎えられましたこと、心より御祝い申し上げます。この度、卒園生企業ということで、真下・八木建設共同企業体で東幼稚園園舎建築工事を施工させていただきまして、大変有難くこの上ない喜びと、深く感謝申し上げます。

工事施工にあたりましては、子供達に夢と希望を与えられる造形を基本コンセプトにし、安全な活動とゆとりある園生活の出来る園舎づくりに取り組みました。その為に1Fェントランスの円柱廻り、昇降口の円柱廻り、西側屋根下の砂場及び、2Fホール等に子供達がたまれる場(コミュニケーション・スペース)のある空間づくりに心掛け、更に先生方の管理がしやすく、使いやすいように全体配置を設定しました。物質中心から人間追求の時代要請のなかで、充実した園運営が実現出来れば施工者として無上の喜びと考える次第です。

私事ですが、昭和27年度の卒園ですので私の近所からは幼稚園に通う子供も少なかった時代です。台町から現在の西幼稚園までは、子供の足では遠い場所でしたので、一人通うことは淋しくもあり辛くもあり、何度かやめようかと思ったこともありました。しかし、幼稚園に行けば友達に会える、そして皆で遊びが出来るという楽しみを求めて通い続けた記憶があります。そんな機会を与えてくれた幼稚園に、そして親に感謝する気持を思い起こします。このような想いを込めて工事施工をさせていただきました。

貴重な体験をさせていただく機会を与えていただきました岩田先生、そして役員の 皆様方に心より感謝申し上げ、岩田学園が素晴しくご発展されますことをご祈念申し 上げます。

園舎建築のこと

八木建設㈱代表取締役社長 八 木 茂 幸昭32年度(東第4回)卒

このたび岩田学園が創立60周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

第二幼稚園を第4回生で卒園し35年が経過して今、その懐かしい園舎を近代的な建物に改築する大事業の業者にご指名頂きましたことは、八木建設にとりまして大きな誇りとするところであります。

私の卒園写真に残る樹木は今ではしっかりと貫禄を持ち、木造の園舎は柱や床、建具もすっかり枯れたいい味を出して、当時森先生に手を引いて頂き歩いて通った頃を思い出させてくれました。5年前より3年間、息子が園にお世話になりました。始めての父親参観日は30年ぶりの訪問でワクワクしたことを覚えています。帰りは二人で手をつないで昔通った道を歩いて帰り、「お父さん達の時は歩いて通ったんだよ」「フーン…」「お父さんの時と同じ建物だよ」「そうナン!おんなじナン!」「門はおじいちゃんが作ったんだよ」「フーン…」

亡き父と、私と息子、親子3代にわたる思い出の園舎でした。

新しい園舎は、何よりも明るくて安全で設備も整って、園児さんにも大変好評とお聞きしうれしく思っております。工事中は責任者としてお世話になりました弟の専務も第7回卒園生で、現在2人の娘がお世話になっております。新園舎が21世紀へ向けて、また親子二代にわたる新しい想い出を創り出してくれることと思います。

終わりに、工事中大変お世話になりました園長先生を始めとする諸先生方、岩田学園理事の皆様方、近隣の皆様方に厚く御礼を申し上げますと共に、岩田学園の益々のご発展をお祈り申し上げます。

60年という実績の中の保育 一旧職員として

太田淑子

学校法人岩田学園創立60周年、東幼稚園新園舎完成おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。岩田幼稚園から岩田学園への歩みの中で、職員として保育に携わることができたこと幸せに思います。57年春、新名称に晴やかな緊張感を覚えました。また、どのクラスからも園名を練習する可愛いい元気な声が溢れていました。西幼稚園の夢のある新園舎に感激し、今度は東幼稚園との願いが今実現され、とても嬉しく思っております。

名称・建物だけでなく保育にも新しい試み、導入がされていったことが記憶に残っております。理事会で熱心な話し合いが行われ運動会会場が城下運動公園になったこと。お別れお遊戯会会場が本庄文化会館となり一段と保育の成果が発揮される様になったこと。今では西中学校体育館でのシート敷き椅子並べ、リヤカーで小道具類を運んだこと等懐かしい思い出となりました。その他、夏のお楽しみ会、給食、ピアニカ、団体列車利用の春の遠足、園バス利用で広域になった園外保育。まだまだ沢山。改めて、より充実した保育目ざして取り組まれた60年という実績に驚嘆しました。

忘れてはならない人がいます。ベレー帽子の似合う前園長先生です。蝶をはじめ動植物をこよなく大切にされた方でした。園児、職員に対しても時には厳しくそして優しく見守っていて下さいました。春になると園長先生より頂いたスズランが必ず可隣な花を咲かせ毎年増え続けております。

『岩田学園は子どもの楽園』これからも笑顔の花を咲かせて下さい。私にとって学園は、社会人一年生から12年間育てていただいた場所、そして沢山の方々と出合えた思い出いっぱいの所です。学園を通して知り合った人々の心の楽園でもあって下さい。最後に岩田学園並びに関係の皆様のご発展とご多幸をお祈り致します。

第5部 幼稚園の日々

園医として

塩原医院院長 亀 森 英 武

ここ本庄の地に岩田幼稚園が産声を上げ、初等教育の一端を負って、60年の"とき"が流れ、その間に幾多の優秀な人材を世に送り出した実績とその御努力に心から賛意を表す次第です。私は昭和63年より園医として、園児の健康診断を行って参りました。心身共に健康な園児を育成するには、どの様な事に留意すべきかを討論する為、園児の御父兄、園長先生、職員のみな様と、スライドを使っての講演も何回か致しました。その結果として認識したことですが、物質に恵まれてはいるが、他方、情報過多の、しかもその情報が複雑多岐に亘っており、これらがストレスとなって社会環境を乱している中で、これから精神、肉体両面を形成してゆこうとする修学前の児童が一番敏感に反応し、その影響をいやが上にも受けざるを得ない年齢層の人たちをいかに自然な姿で教育してゆくかは大変困難な事であります。

数年に亘り、園児の健康診断記録を検討してまいりますと、精神面では年を追う毎に、情緒不安定、集団生活に対する恐怖感、その一つの表現として、チック等の症状が散見されます。また肉体面では体格はすばらしいが、運動能力、敏捷性が低下しつつあり、更には呼吸系、循環系の障害を有する児童が増えつつあります。これらは、飽食、運動不足、物質過多社会の産物であろうと思われます。

家庭に於ける父母の愛情あるしつけと、集団にとけ込む習慣を教え込み、スムーズに入園させ、自然の状態で幼児教育を楽しみながら学ぶような教育環境造りが現在必要とされている様に思われます。家庭と学園が密に連絡をとり合い、修学前幼児教育にあたられてこそ、すばらしい園児が沢山育成されてゆくでしょう。これからも、幼児の精神的、肉体的な健全な成長に全力を傾注してあたられる岩田学園の職員のみなさまに絶大な拍手を送りたいと思います。と共に微力ではございますが私も、みなさまのお役に立つよう精進する所存です。岩田学園の益々の発展をお祈り致します。

園医として

宮本デンタルクリニック院長 宮 本 信 夫

岩田学園創立60周年、誠におめでとうこざいます。一口に60年と言いますが、これは大変な歴史だと思います。私自身、私と私の長女、そして本年度春には長男もお世

話になり、親子2代にわたって幼児期、最もむずかしい時期を岩田学園で学ばしてもらうことになります。こんな伝統ある岩田学園の同窓であることを誇りに思っております。

縁あって、同園の園医に就任して数年が経ち、その間、口腔内検診、ブラッシング 指導、母親教室等、毎年繰り返し行っております。

同園の卒園者には虫歯が無い様にしたいという気持ちで始めましたが、年を追うごとに少しずつではありますが、効果が表れてきています。これは園児本人が自分から意識を持って行っているというよりも、父兄の方々の意識、つまり、幼児期の口腔内の状態、又、父兄御本人の状態がどうなのか、どの様であるべきなのか、といった問題意識を持っていただいた事の表れであると解釈した方が良いと思います。

これを我々はデンタルアイキューと呼んでおりますが、先進国と言われている我が 日本は、悲しいかなこのデンタルアイキューが大変低いと言われております。

我々人間は神様から、乳歯と永久歯2組の歯(歯列)を与えられており、これらの大きな仕事は、咀嚼であります。咀嚼とは、顎骨、歯、および歯周組織、周囲の筋、舌、口唇などの諸臓器の働きによって食物を摂取し、咬断、粉砕し、唾液とよく混和し、食塊を形成し、嚥下しやすくする作用をいいます。消化作用の最初は口腔における咀嚼作用であって、第一に働くものは歯列であり、歯であります。咀嚼が唾液の分泌を促進し、精神を落ち着かせ、繊維性の食物などにより、歯の表面を清掃し、ある程度のマッサージ効果も考えられ、また、食物残渣の停滞及び歯石の沈着を防ぎます。したがって歯の健康か否かが、咀嚼に大きく影響するわけです。

我々は、日常咀嚼の重要性を認識せずに行動していますが、実際に虫歯や歯周疾患 (歯槽膿漏) に罹患した場合には、咀嚼の有り難さは痛いほどわかるものです。

歯科治療で咀嚼はある程度回復できますが、その為の時間や費用、その努力は莫大なものであり、いくら立派な義歯(入れ歯)を装着しても、天然歯に勝る咀嚼能率をあげることはできません。

最後にあたり、私から一言、現状は食品のソフト化や嗜好の変化などで、口腔内の環境を悪化させる傾向にあります。口腔内疾患、ことに虫歯や歯周疾患(歯槽膿漏)に罹患しないように各人が注意し、十分な咀嚼ができ、食事を楽しむことによって、精神的にも肉体的にも、又、社会的にも、健全な状態を保てるように心掛ける事が重要であると考えます。

幼稚園の学校薬剤師として

薬剤師 中原千賀

学校・幼稚園では、児童、幼児及び職員の健康を保持して、快適な学習環境を創造 していくために、安全で衛生的な環境の維持が求められており、法令によって照明、 騒音、空気、机・いすの整備、黒板、飲料水、トイレ、ゴミ、害虫、清潔さ、食品衛 生、水泳プール等の基準が定められていて、幼稚園の職員と共にその管理を担当して いるのが学校薬剤師の仕事です。一昨年10月浦和市において、幼稚園で集団下痢症が 発生して不幸な事に死亡者まで出て大きな事件となりました。調査によると、井戸水 中の病原大腸菌による発病とみられ、その汚染経路は近くの浄化槽の汚水タンクと汚 水桝から、かなり多量の汚水が井戸へ流れこんだ事がわかりました。この病原大腸菌 はヒト、特に乳児に腸炎を起こすことが1940年代からわかってきました。今回の集団 下痢症はベロ毒素産生大腸菌 0-157によるもので、これは赤血球を溶かし血小板を 破壊するため出血が止まらなくなり、ひどい血便になるということです。予防対策と しては、1.食品を衛生的に取り扱って調理する。2.飲料水は定期的に水質検査をし て残留塩素を確認する。3.手指、器を十分洗浄する。こと等があげられます。本学 園でも担当者と責任者を決めて水質検査を実施しております。特に環境の問題は日本 だけではなく地球上の問題として現在各方面から叫ばれておりますが、目に見えない 所にその原因があるだけに一人一人が自覚して日常生活を送ることが大切な様です。 毎日家事・育児にそして仕事に一番生活に近い女性の目を通した身近な環境に注意 の目を向けることこそ最大の予防策ではないかと思います。おわりに幼稚園のお子様 をはじめ関係者の皆様方のご健勝と本圧岩田学園様の益々の御発展をお祈り申し上げ ます。

子供と一緒にPTA役員も卒園

本庄西幼稚園さくらんぼ会 会長 高橋 稔 子

桜の花が咲く頃、幼稚園でどんなところだろうと、胸をワクワクさせて躁いでいる 我が子の小さな手をにぎり入園したのが、つい昨日のように思い出されます。PTA 役員になって三年、最初は、私に本当にできるかしら?と、不安な毎日でした。その うち、初めから出来る人はいないんだ、出来なくて当たり前と、居直った気持ちにな り、自分から積極的に接して行こうと思いました。そして、大きな壁につき当たった時、いつも思い出すのは、かわいい笑顔で元気に走り回っている子供達と、優しく一生懸命お世話して下さってる先生方の姿です。自分自身に、"ファイト"と声をかけ頑張ります。お陰様で、今では理事会も、井戸端会議のような和やかな雰囲気で、いろいろな意見が交わされております。まず最初にいつも思います事は、今、子供たちが何に一番興味があるのか、何を好きなのか、どんな事をすれば喜ぶのか、と、言う事を必ず考えて行っております。さくらんぼ会の行事も回数を重ねる毎に参加者も増え、終わった後で皆様から、楽しかったですよ、と言われますと嬉しくなり又、次回もより一層楽しんで頂ける様にと、他の役員の方達と話をし、新たな気持ちで取り組みます。幼稚園生活にもなれ、子供達も沢山のお友達ができて、毎日元気に通っております。私達大人も、最初は幼稚園父兄から、今では良き友人となり、もうすぐ子供と一緒にPTA役員も卒園。夢と、希望と、沢山の思い出を下さった岩田学園に、ありがとうと、言いながら。

スクールバスの一日

本庄東幼稚園職員 千代田 光 弘

幼稚園発 7 時50分、スクールバスは朝の輝く陽を浴びて、かわいい子供たちを迎えに出発します。今年、44才の中年バスのおじさんと若い先生には、毎日楽しみにしている事が一つあります。第三停留所S君の届けてくれる家庭新聞朝刊。記事は毎日とっても小さな事なのに、その日一日楽しくなったり、考えさせられたり……。

月曜日のトップ記事は、大体、日曜日おとうさんと何をしたかです。そこにはS家のほのぼのとした様子が目に見えるようで楽しくなります。

ある日、元気なくバスに乗ってきたS君、いつものように先生にぽつりと、こんな事を言ったんです。「あのね……、きのうね……、おとうさんとおかあさんね、けんかして、おかあさんどっかへいっちゃったん……。」こんな時は先生もなんと言って慰めようか苦慮してしまいます。なんだかバスのペダルも重ーくなった気がするんです。その日のS君のお弁当は、いつもと違って、菓子パンと牛乳パックでした。S君を幼稚園へ送り出すおとうさんの戸惑う姿がお弁当にオーバーラップしてなにかしら淋しそうです。

ご心配無く、翌日S君の家庭新聞朝刊が元気のいい顔で届けられた事をお知らせしておきます。

会員の充足を目指して

本庄東幼稚園つくしんぼ会 会長 梅沢 貴志子

岩田学園創立60周年おめでとうございます。PTAもまた、その発足から長い年月を幼稚園と共に歩み続けたのかと考えますと、感慨無量です。

さて、現在の東幼稚園つくしんば会の主な活動を、お話したいと思います。一学期はまず春の遠足から始まり、夏休み前には先生方をお囲みしての親睦夕食会を開催しております。楽しく和やかな会にむけて、理事による余興も毎回趣向を凝らすことになります。夏休みに入ると、園庭で歌や花火を楽しむおたのしみ会が開かれます。夕刻からのにぎやかなひとときの雰囲気作りにと、模擬店を出させて頂くこともあります。二学期は秋の遠足から運動会に続きます。お父様方にも応援をお頼みし理事総出のお手伝いとなります。園外保育としての利根川探訪や群馬の森散策も、園児の世話方々一緒に楽しんでおります。そしてこのころ計画いたしますバザーは、その収益を年度末謝恩お別れ会の補助に充てるべく、会員の方々にも御協力を頂いており、品物は毎回ほぼ完売。役員一同感謝にたえません。三学期はいよいよお遊戯会です。衣装作りの一針一針にも心を込め、当日は園児の姿に目を細めてのお手伝いです。そして終業式間近には、一年間の先生への感謝と、惜別の思いを込めての謝恩お別れ会が待っております。PTAを媒体とし会員おひとりおひとりに、どれだけ幼稚園生活を充足したものにしていただけただろうか、そんな反省の時と場所でもあります。

PTAはその名の通り、保護者と先生方とで構成される会です。なお一層の相互協力と理解のもと、PTA活動の充実と発展にこれからも努力してまいりたいと思います。

丹精こめた庭木づくりを

昭和22年度(第18回)卒 岩田二郎

皆様のお骨折で素晴らしい東幼稚園を建ててくださりお礼の申し上げようもございません。不肖の私はたいしたお手伝いもせず感謝申し上げるのみでございます。

父が亡くなり今年で7年経ちました。自然を愛した父が残した数々の樹木、植物類 を父の心をそのままに育てたいと枝振りや高さを父に相談する気持ちで休日を利用し て帰庄し剪定したり消毒して大分見事になって来ました。

現在西幼稚園の庭には桜二本、梅、桃、さくらんぼ、こぶし、 海棠、白ライラック、もみじ大二本小さいのが数本。裏庭には ざくろが一本有ります。藤とあけびはかなり広い棚いっぱいに なって居ります。その他椿も数種類、秋の菊、草花等四季折々 に咲いて目を楽しませ、道を通る方にも誉められるようになり ました。時期に実ったさくらんぼやあけびは園児が昼食後食べ たり、家へ持ち帰ったり、又お絵描きの材料にしたりと楽しま せてくれると先生から聞きました。うれしいことです。



カイドウ

私も自然が大好きで我が家(北本市)にも種々ありますが、 皆様から面倒見がよいと言われます。幼稚園の木々も虫がつか ないか、風に痛められないかなど心配でつい来てしまいます。

今度東幼稚園へも桜、さるすべり各一本、もみじ二本、さざ んか二十本余り、妻の実家の兄の好意で植えましたがもう少し **園庭の花(ライラ** 数を増やしたいと思って居ります。



今頃泉下の父も安心してくれましょうし、母兄妹達にも喜ばれ私も嬉しく思って居 ります。これからも、丹精こめた樹木を皆様にみていただくよう精一杯やっていくつ もりです。

帳簿・財務諸表への高い信頼度 ―監事・顧問弁護士として

60周年記念事業推進委員会監事 岩田学園監事 小池幸造

私が岩田学園の顧問税理士となったのは、13年前の1979年からである。実は現理事 の岩田龍司先生は、私の熊谷高校時代の恩師であり、岩田学園の顧問税理士となった のも龍司先生との関係による。

当時は、亡き岩田五郎氏が園長で、学校法人ではなく、個人経営の私立幼稚園であっ た。私立幼稚園は、学校法人化を条件として埼玉県より補助金を受けていたが、この 受給に伴う県提出の財務書類は、膨大な量でありかつ複雑なものであった(学校法人 となった現在も同様である)。

私は監事兼顧問税理士とはいえ、依頼されている主な業務は、税務ではなく、この

県提出の適正な財務書類の作成である。私の作成する岩田学園の財務書類は、必ずし も県職員の指導通りには従わない。何故なら県職員の指導にも誤りがあるからである。

私は過去数回、県職員と議論し合かったことがある。岩田学園の帳簿や財務諸表に対する県よりの信頼度は、県内幼稚園の中でもトップクラスといわれている。毎年の県の検査においても、指導・勧告される事項もなく、優良な学校法人とされている。これも岩田学園が常に適正な会計処理等を行っているからである。巷間には不正経理や放漫経営で、マスコミにとり上げられる学校法人もあるが、岩田学園に限っては、そのようなことは断じてないと公言できる。これからも公正な経営を続けていくことを期待していきたい。

上野動物園

創立60周年記念事業実行委員 岩田学園評議員 大木 玲子

七草の朝、熊谷駅前で献血していると迷い子の案内が放送されました。あ、私も一度だけ自分の不注意で息子を迷い子にしたなあと感慨にふけりました。中国からパンダが来日し上野動物園は連日満員。そんな時春の遠足がありました。パンダ舎の前は長い行列で中は柵をはさんで子供と大人が別れて見物する様仕切られていました。二女を背負い両手に荷物を持った私は大急ぎで大人の列を通り抜け出口で待つことしばし、長女は近所の娘さんをつれて楽しげに出てきましたが息子がいません。 "さっ"と血の気が引きました。パンダ舎を逆に歩いて息子を捜しましたが見つかりません。途方にくれるていると "岩田幼稚園の〇〇君のお母さん"と迷い子案内の放送が流れました。預かり所を探し近づくと息子は背を向けて長椅子に座っていました。後からそっと息子の名を呼ぶとふっと振り返り私を確認すると泣き始めました。私は心細い思いをさせた事を謝りました。

小康状態を保っていた祖母の容体が急変し、まんじりともしない夜が明ける頃祖母は旅立って行きました。空ろな心で家のまわりの掃除をしていると数軒先の玄関が開き親子連れのお出かけでした。 "あ、遠足の…" 二女が出かけるはずだった遠足の朝だったのです。祖母の葬儀等多勢の人の出入りが収まった頃、 "私だけ遠足に行けなかったんね" と二女が不満気に言いました。その後、事ある毎に行けなかった遠足を話題に持ち出し私を困らせました。

迷い子になった長男も、今春社会人として巣立ち、遠足に行けなかったと嘆く二女

三人それぞれの幼稚園風景

60周年記念事業実行委員 春 日 くに子 岩田学園評議員

光陰矢の如し、我が家の岩田幼稚園でお世話になった三人の子供達も既に成人、今 二十年以上も前の当時のことを懐しく想い出して見た。

集団教育の場は、娘には勿論初めてのこと、私にとっても親一年生として初めての 出会いであった。期待と不安で大変緊張した事を今でもはっきり覚えている。

娘の初めての春の遠足、楽しみにしていた上野動物園、「はしか」で泣く泣く不参加。 義母と行った赤城山への遠足。「お母さんにお土産」と真珠のブローチを、義母にお ねだりして買っている二人の風景が目に浮かぶ。いろいろ優しく支えてくれた義母も 今はいない。「お母さん、大きい銀紙に包んでね。」これは長男のおにぎり弁当の想 い出。昼食後銀紙を使って遊ぶ為の息子の要望であった。毎日せっせとおにぎりを作った時が楽しく想い出される。又次男が入園した時のこと。「あんな赤ちゃんぽい遊び ばかりして、ばかばかしくて…」と幼稚園へ行くのを嫌がった。当時園庭で先生を先頭に上着の後を持って連なって遊ぶ電車ごっこが流行であったらしい。本人にして見れば今まで小学生の兄や兄の友達とばかり遊んでいたので、当然物足りなさを感じたのであろう。今でも時々でるこの話題に苦笑いしている。

又運動会やお遊戯会では、子供達の成長した一生懸命の姿に感激し、何度涙したことか。私達の想像できないご苦労と豊かな愛情を持ってご指導下さって迎えられた六十周年。園長先生をはじめ諸先生方に感謝し、今後のますますのご発展を願って止みません。

思い出

60周年記念事業実行委員 岩田学園監事 齊藤君代

県下でも屈指の名門校、本庄東幼稚園完成誠におめでとうございます。 あかしや、桜、ねむの花に囲まれた東幼稚園には今でも鮮明に蘇ってくるものがございます。 ある時第二代園長岩田五郎先生が私の家にお立寄になられた時の事です。こちらの 園庭で行われた秋の運動会のおり、まるで銀杏の葉が舞いおりて来たように真っ黄色 の蝶が飛来し「もう感動してしまいました。」と申しましたところ急に先生の目は輝 きやや早い口調に変られてしまったのです。そして自然科学の観察のポイント等熱心 に教えてくださったのです。おっしゃるには「学生の頃からザリガニ先生こと須甲鉄 也先生が自然界へのおもしろさを教えてくださった」との事でした。

ご縁とは不思議。私も生物学がこんなにおもしろいとは、まさに須甲先生と出会ってからです。(感化されてか三十年も路傍の花に魅せられている。)照若にもオドリコ草が群生しているとか、沼にいるヒドラの分裂、山中での昆虫ウオッチング等々に話の花が咲きました。「須甲先生は、二人にとって宝物ですね。」とおっしゃったことは、私にとって思い出の1ページです。……益々の発展を祈念しつつ。

東幼稚園を前にして

60周年記念事業実行委員 岩田学園評議員 清 水 淳 子

岩田学園創立60周年おめでとうございます。私がこの家に嫁いできまして22年間岩田学園とは隣組みという形で、又私の子供達、義妹達もお世話になりました。この度立派な園舎が完成され素晴しい環境の中で園児達の賑やかな遊び声歌声が聞こえてくると先代園長の嬉しそうに園児達を見守る姿が想い出されます。私が紹介される時又自分を名乗る時は必ず「幼稚園の前の清水です」という具合で、歴史と伝統のある岩田学園とはこれからもずっとお付き合いさせて頂きます。



新園舎ステンドグラス

近頃は送り迎えのお母様方もファッショナブルで若くてステキな方ばかりです。広い園庭でのびのびと走り廻っている園児は今も昔も変りなく、これからも安心して保育をお任せできる理想的な幼稚園として頑張ってください。職員の方達の御活躍を期待して居ります。

あけびの思い出

60周年記念事業実行委員 岩田学園評議員 中村 多美子

我家では三人の子供が重なることなく、八年間御世話になりました。今から考えると呆れるばかりですが、入園に際しても、ただ家事と育児に追われる毎日に、幼稚園に行っている間だけはその子の事が頭から離れられる、といった単純な期待のみで教育的な要望もろくに持たずに入れてしまいました。それでも然したる不安がなかったのですから、よくぞここまで育ってくれたものだと改めて感じます。そんな無知な親でしたが園の方ではしっかりと受け止めて下さり、若い先生方が本当に一生懸命面倒を見て下さり、教材も牛乳ビン、石鹸箱等の家庭にある不要品を上手に利用して居られていつも関心させられました。

秋のある日、長女がマンガのついたアルミの御弁当箱を大事そうに抱えて帰宅し「お母さんにお土産よ」と言って開いたその中には黒紫の半球型の物が入って居りました。子供の話でそれがあけびの実で、どんな木にどんな様子でなっているのか始めて知りました。そんな木さえあるのを知らなかった私は次の朝、子供と一緒に幼稚園のあけびの木を見ていると、草花の手入れをなさっていた前園長先生がいつもの様に静かな笑顔で沢山なったあけびの話をして下さいました。それまであまり親しめなかった園長先生がとても身近に感じられると共に、私には慌しい生活の中にも自然を見つめるきっかけになり、子供には植物に興味を持つきっかけになりました。

何を教えますと言う事ではなしの地道な教育がとても素晴しく感じられ、今の時代 にも是非欲しいものだと思います。

忘れられない経験

60周年記念事業実行委員 岩田学園評議員 福島永子

昭和43年、二人目の子供がお世話になりました時に、PTAの会長と言う大役をお引き受けしました。責任重大です。右も左も分からず、夢中で行事に取り組む始末です。園外保育で利根川の芝すべり、ゴム風船つきをしたり、童心にかえり、遊んだこと、運動会、バス旅行等数々の思い出が沢山あります。園長先生は昆虫採集をしてお

られ日本の珍らしい蝶や、蛾など沢山集められて、良く展示をされておりました。

私にとって生涯体験することはないであろうと、思うことを経験させて戴きました。 卒園の年に、園長先生、職員の方、PTA役員の方達とご一緒に、私立幼稚園にも助成金を出して戴く様に陳情に出かけたことです。沖縄を始め、関東は勿論、北海道まで、日本中の私立幼稚園関係者が、永田町の議員会館に行き、七階の会場をぎっしりと埋め尽くして居りました。代表者が大平総理大臣に陳情書を手渡しました。その後花束を贈呈し議員の方達の有意義なお話を伺いました。その時、ヨド号のハイジャックが有り、人質と交換に飛行機に乗った議員さんのお話も伺いました。

私もPTA会長と言う役職をお引き受けしたからこそ、この様な体験をさせて戴きました事、本当に良かったと思います。現在60年の長きに亘り、幼児教育一筋にまいりました岩田学園に子供達が、お世話になりました事、誇りに思います。心より御発展をお祈り申し上げます。

山の手の幼稚園

60周年記念事業推進委員会監事 岩田学園理事 吉 川 洋 —

小学生の私が住んでいた昭和3~4年頃の東京の場末の街は、川を中にして西と東に分かれていて、東は高台で通称山の手と呼んでいた。西の街は中流以下の人々が肩を寄せ合って暮らしている、下街といわれていた。山の手は広い庭に立派な邸が多く中には国務大臣も住んでいるとおいうお金持の街である。私共下街の子供達は近所の仲間が集って、餓鬼大将を中心に竹棒をもって、チャンバラや兵隊ゴッコをやったり、夏はトンボ採りやせみ採り、小川の魚すくい、遠い洗足池へ魚つりと大いに腕白を発揮していた。しかし集団は秩序正しく行動していた、餓鬼大将が生活や付き合いのルールを遊びの中で教えて、ケンカをしてもケンカのルールを守らせ人に怪我をさせることは絶対しない。終ればケンカの事は全く忘れて仲良く遊ぶ、差別やイヂメは全くなかった。悪いことも教えられたがよい事を教えられたことが多かった。小遣いがほしくなったら、工場のゴミ箱から赤金(銅)をひろって歩いて集め、古物屋へ売って小遣いを作り平等に分けて、親から貰うことをさせなかった。或る日のこと山手に幼稚園なるものがあると聞き、どんなものか見物に出かけた。例の通り竹の棒はキチンと持って。幼稚園は山手に1園あるだけで下街にはない。できても入園するものはいないだろうと思う。朝8時に出かけた総勢12~13人外柵の外から眺めていた。制服にエ

プロンをつけ胸にハンカチに名札をつけ、お手伝いさんや母親に手を引かれて門を入ってくる。始業になると、女の先生が何人もいて、1人の先生がオルガンを引き歌を唄い子供達は一緒に唄っていて、中にはお遊戯をしている子供もいる。絵を画いたり、工作をしたりしている者もいる。皆んな楽しそうにしていた。さぞほんとうに楽しかろうと誰もが感じ唯ボー然となって帰ってきた。しかしやはり下街の子供は山手の子供と違うルールで毎日を過していて、決して不思議ではなかった。今でも山の手の幼稚園を思い出す。

幼稚園と小学校

昭和 34 年度(東 6 回)卒 丸山 修

「作品は大切にしてください。決してけなしたりしないでください。」学期末にいただいてくる作品に添えたプリントの言葉です。一枚一枚、一つ一つの作品にほめ言葉を書いてくださる先生。そのほめ言葉が子供達の励ましを、親達に喜びを与えてくださいます。「上手になったね。」「いっしょうけんめいやったんだね。」まるで自分がほめられてでもいるような親。得意そうな子供の顔。小学生になった上の二人も今でも必ず作品をほめてもらいに来る。出来ばえは良い物でないが作ることを描くことを途中で投げだしたりしません。作ることを描くことを幼稚園で本当に好きにさせていただいたお陰であると思います。

三月は楽しいお遊戯会です。家族を挙げて晴れ姿を見ようと楽しみにしています。 舞台の上では全員の子供達が主役です。その前にはいつも手ぶり身ぶりの援助をして くださる先生方の姿があります。目をかけ、手をかけ、声をかけてくださる先生方の 情熱で、すばらしい舞台が繰り広げられます。大勢の観客の中で自分の役割りを決め られた手順でこなす、 これは大人でもなかなか難しいことです。子供だからこそで きるのでしょう。こうした経験が子供達に大きな自信を与え、次への挑戦につながる 事と考えます。

岩田幼稚園でお世話になった園児達は園での生活で得た経験と自信を持って、小学 校でその力を十分に発揮していけることと思います。

幼稚園教育の新しい方向

60周年記念事業推進委員会事務局 本庄西幼稚園教諭 岩 田 紀美代

「遊びをせんとや生れけん。戯れせんとや生れけん」これは日本幼児教育の先駆者 倉橋惣三先生の言葉です。この言葉の通り幼児にとって遊びは最も必要なものであり、幼稚園での生活は、この遊びが主体です。この言葉のもつ精神は昔も今も幼稚園の教育の中に生きつづけ、これからも変ることはないと思う。この遊びを通して幼児は、友達とかかわりながら葛藤し、達成感、挫折感、充足感などを味わい、様々な体験を重ねながら成長していきます。幼稚園に於ける教育の目標として、文部省の定める幼稚園教育要領というものがあります。この教育要領の許で、幼稚園としての目標や、日々の保育のねらいを定め私達は子どもに接しています。今回25年ぶりに改訂された教育要領が大きく示す方向は、科学技術の進歩と経済の発展によって大きく変化した社会を生きていく為に、どんな人間を育てなければならないかという事です。自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成をめざして、その基礎となるべき教育環境を子どもと共に創造することが重要視されているのです。

子どもが毎日する遊びの中に、サッカーがあります。最初はただ園庭を蹴り回っていた子ども達、他の遊びをしている子にぶつかるからと何度も注意を受け、相談してコートを画く事になった。「先生ゴールも描いてね。」「コートからボールが出たらどうする?」「キーパーが拾ってきてゴールから蹴ればいいよ」他の子にぶつかる危険性から決められた場所で蹴らせたいという気持ちから始った簡単なルールだったが。しばらくしてある日「先生審判になってよ。」と声がかかった。「審判て何するの?」「ゴールを通って門に当たったら一点、蹴る時手でボールをさわったらハンドと言っていけないんだよ…」ルールが大分増えたようだ。自分達でこうしたルールを決めて遊べるようになった姿を私は嬉しく思った。教師がルールを与えるのではなしに、子ども達が自分達で考え、必要なルールを話し合う姿こそ、物事に取り組む意欲や態度を育てる事になると思う。そしてそれは、新教育要領の基本とする幼児の主体的な活動を促すことになるのです。

子どもが今何を求めているのか。子どもを夢中にさせているものは何なのか。一人一人の子どもの発達の特性をよく見つめ、身につきやすい時期をしっかりとらえ、その発達に即した指導をする教師の質の向上が求められてもいるのです。60年の歴史に

子供の心に触れる喜び一職員として

60周年記念事業実行委員 本庄東幼稚園教諭 千代田 信 子

東幼稚園に勤務して23年。今年思いがけなく新しい園舎が建ち快適な毎日を送れる様になり、すべてに感謝したい気持です。いろんな滑り方に挑戦し、冒険心を満足させる長い滑り台、自由に描ける広い黒板、明るく暖かく広い保育室、大型積木で創造性が発揮でき友達との共同作業が楽しめる二階遊戯室等。卒園児の不満の声に苦笑する日々でもある。 A「私の時は汚なかった。」 N「もっと早く直せばいいのに。」 Y「僕がもっと遅く生まれれば良かったんですね。」等々。

卒園児の成長する姿が見られる幸せもかみしめる。 学校で活躍する話を聞いたり、種々の展覧会で作品に出会う時、又、実習したり保育者になって勤務



朝の園児たち

したり、親になりその子どもが入園したり……そんな時、幼稚園時代がそれぞれの心に残っていることを改めて感じて嬉しく思い、同時に責任の重さを痛感する次第です。

幼稚園時代の作品を保管してある方も多いと思うが私も記念に戴いており、それらに触れるとその時々の思い出が蘇り感慨にふけることがしばしばです。私の一番楽しみな、行事等の感想はどれも印象強く残り、ほのぼのさせられる。卒園間近の手紙に、「先生はどうして水撒きがうまいのですか。」との素朴な質問に、庭の水撒きにも上手下手があるのを見抜く鋭さに恐れ入ったり、人気の群馬の森の感想画では「かっぱの池でほんとにかっぱが足を引っ張るのかとドキドキしました。」「おばけ屋敷で、ワーッと大きな声を出したのでびっくりして転んでしまいました。」など。遊戯会の職員劇に「ばすのおじさんのお尻を振るところが笑っちゃいました。」また、一年間を振り返り「参観日で家の人が大勢いたので僕は発表できなくなってしまった。」「遊戯会でいっしょに組む友達が休んで一人で踊ったのが恥ずかしかった」に至っては、小さな胸を痛めたり、張り裂けそうな思いをしていたのかと、胸が詰まったもの

です。

常に子供と接し、向い合う生活には感動が多く、新鮮な喜びに心が震え豊かな感性に驚く。夢中で過ごしてきた日々をこうして立ち止まって思い返せた事は、また明日からの新たな活力になりそうな気がします。

これからもノートでの触れ合いを楽しみ、父親も参加の遠足、お楽しみ会、運動会、 参観日などに胸を躍らせ、子ども達の歓声に応える毎日を送っていくつもりです。卒 園児の皆さんに逢えることを心待ちしながら……。

•

_ | |

- 1. 岩田学園60年の歴史
- 2. 岩田学園卒園児数一覧
- 3. 年間行事予定
- 4. 本庄西幼稚園・本庄東幼稚園の変遷
- 5. 創立60周年記念事業の歩み
- 6・創立60周年記念事業推進協力委員ご芳名一覧

岩田学園60年の歴史



- 1930 (昭5)年6月15日 本庄西幼稚園の地に、私立本庄岩田幼稚園として創立。 初代園長岩田仲次郎。在職三十余年の本庄小学校時代の教え子の後援による開園 であった。定員80名、教諭2名。
- 1950 (昭25) 年4月1日 第2代園長岩田五郎就任。園庭東に園舎増築。それに伴って園庭拡張。これにより樹齢100年の大銀杏が園庭に入り、のち岩田幼稚園のシンボルマークとなる。この大銀杏は町の南3キロの浅見山から識別されるほどのものであった。この年に埼玉県私立幼稚園協会(全埼玉私立幼稚園連合会の前身)結成。園長、県北地区代表として理事に就任。1973年まで20年間在任。うち1期2年は副会長。
- 1954 (昭29) 年7月1日 本庄東幼稚園の地に、第二岩田幼稚園を開設。本庄市制施行と同日である。園長岩田五郎兼任。定員80名。教諭3名。
- 1955 (昭30) 年 第二岩田幼稚園々舎増築(のちの中棟)。
- 1960 (昭35) 年 第二岩田幼稚園々舎増築(南棟)。定員120名となる。
- 1977 (昭52) 年 スクールバス運行開始。
- 1978 (昭53) 年 園長岩田五郎、秋の叙勲で勲六等単光旭日章受章。
- 1980 (昭55) 年 創立50周年を記念し、学校法人岩田学園を設立。同時に本庄岩田幼稚園を本庄西幼稚園、第二岩田幼稚園を本庄東幼稚園と改称。理事長岩田五郎就任。
- 1982 (昭57) 年 創立50周年記念事業として、本庄西幼稚園々舎を新築。鉄筋二階建 4 室と事務室、職員室、浴室等。
- 1985 (昭60) 年 2 月 第 3 代園長、理事長に岩田祥江就任。現在に至る。
- 1989 (平1) 年10月 来年の創立60周年に向け、記念事業として次の三事業を行なうことを決定。
 - 1. 同窓生名簿の作成
 - 2. 記念誌編纂
 - 3. 本庄東幼稚園々舎新築
- 1991 (平3) 年12月 本庄東幼稚園々舎完成。
- 1992 (平4) 年3月25日 岩田学園創立60周年記念式典・園舎落成式を挙行。
- 1992 (平4) 年4月1日 本庄東幼稚園 定員200名に。

岩田学園卒園児数一覧

卒年度	回	,	Λ ,	数	累	計	卒年度	回	人数	回	人数	累	計
昭 5 (1930)	1		3 '	7			3 5	31	7 7	7	1 0 3	2,5	3 0
6	2		4 ()		7 7	3 6	32	8 1	8	1 1 2	2,7	2 3
7	3		4	[1	1 8	3 7	33	8 0	9	1 1 6	2,9	1 9
8	4		4 4	1	1	6 2	3 8	34	8 4	10	1 1 0	3,1	1 3
9	5		4	Ĺ	- 2	0 3	3 9	35	7 2	11	1 1 2	3, 2	9.7
1 0	6		4 3	}	2	4 6	4 0	36	7 9	12	1 0 6	3,4	8 2
1 1	7		3 4		-2.2	8 0	4 1	37	.8 4	13	1 2 4	3,6	9 0
1 2	8		4 2	2	3	2 2	4 2	38	6 7	14	9 5	3,8	5 2
1 3	9		2 6	;	3	4 8	4 3	39	6 9	15	9 9	4,0	2 0
1 4	10		4 8	B 25 .	3	9 6	44.	40	8 1	16	101	4,2	0 2
1 5	11		4 7		4	4 3	4 5	41	8 2	17 .	1 0 8	4,3	9 2
1 6	12		6,7	•	5	1 0	4 6	42	7 6	18	9 2	4,5	6 0
1 7	13		6 8		5	7 8	4 7	43	6 9	19	5 0	4,6	7 9
18	14		6 5		6	4 3	4 8	44	7 9	20	1 1 0	4,8	6 8
19	15		6 5		7	8 0	4 9	45	8 3	21	9 2	5,0	4 3
2 0	16		3 .7		7	4 5	5 0	46	7 8	22	8 5	5,2	0 6
2 1	17		6 7		8	1 2	5 1	47	5 3	23	74	5,3	3 3
2 2	18		8 8		9	0 0	5 2	48	5 7	24	5 5	5,4	4 5
2 3	19		7 0		9	7 0	5 3	49	3 6	25	6 8	5,5	4 9
2 4	20		9 5		1,0	6 5	5 4	50	4 1	26	8 6	5,6	7 6
2 5	21		5 1		1, 1	1 6		本庄	幼稚園	本庄勇	東幼稚園		
2 6	22		5 2		1, 1	6 8	5 5	51	3 6	27	6 7	5,7	7, 9
2 7	23		1 4 2		1,3	1 0	5 6	52	. 3 3	28	7 0	5,8	8 2
2 8	24		1 3 3		1,4	4 3	5 7	53	2 9	29	7 3	5,9	8 4
	本庄岩	田幼稚園	本庄第二	岩田姚楓			5 8	54	3 3	30	5 0	6,0	6 7
2 9	25	9 6	1	4 6	1,5	8 5	5 9	55	2 3	31	6 6	6,1	5 6
3 0	26	9 5	2	7 8	1,7	5 8	6 0	56	4 1	32	6 0	6,2	5 7
3 1	27	8 0	3	6 2	1,9	0 0	6 1	57	2 8	33	5 5	6,3	4 0
3 2	28	8 6	4	6 7.	2,0	5 3	6 2	58	3 2	34	5 5	6,4	2 7
3 3	29	7 6	5	7 1	2,2	0 0	6 3	59	2 3	35	5 5	6,5	0 5
3 4	30	7 2	6	7 8	2,3	5 0	平1 (1989)	60	2 6	36	6 2	6,5	9 3

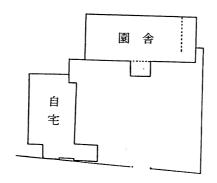
年間行事予定

4月10日	入園式	西幼稚園-午前10時 東幼稚園-午後1時
5月第2日曜日	春の遠足	上野動物園など、電車利用、両園合同
5月下旬	交通安全クラブ集会	城下運動場、両園合同
6月上旬	●一学期参観保育	
6月15日	開園記念日	昭和5年6月15日開園、当日休園
6月下旬	園外保育	市内公園、スクールバス利用
7月中旬	祇園祭り	園内
7月21日~8月31日	夏休み	
8月上旬	お楽しみ会	夜間、園庭
9月下旬・10月上旬	大運動会	城下運動場、両園合同
10月上旬	秋の遠足	観光バス利用、両園合同
10月中旬	芋掘り	市内、スクールバス利用
10月下旬	園外保育	利根川探訪、スクールバス利用
11月上旬	◉二学期参観保育	
11月下旬	園外保育	群馬の森、スクールバス利用
12月24日	クリスマス	園内
12月25日~1月7日	冬休み	
1月中旬	1日入園	新入園児招待
1月中旬	在園記念写真撮影	クラス別に
2月上旬	◉三学期参観保育	
2月中旬	新入園児保護者会	
3月第1日曜日	お別れ記念遊戯会	本庄文化会館、両園合同
3月中旬	園外保育	群馬の森、スクールバス利用
3月23日	終業式	年中、年少組
3月24日	产 園式	西幼稚園-午前10時 東幼稚園-午後 1 時
3月25日~	春休み	
その他	毎月お誕生会	

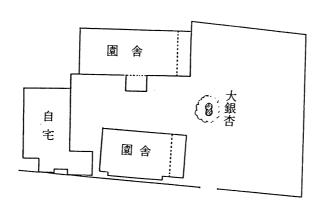
^{資料 4} 本庄西幼稚園・本庄東幼稚園の変遷

60年の歴史の中に、園庭・建物は大きく変遷しました。次の図は約500分の1の縮図です。

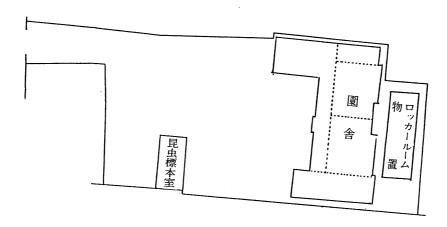
〔本庄西幼稚園〕



'30(昭5)年-'50(昭25)年

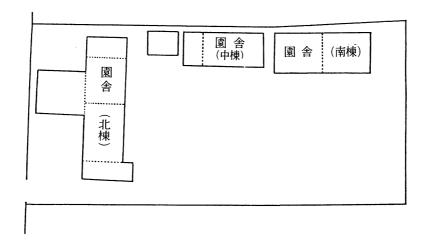


'50(昭25)年一'77(昭52)年

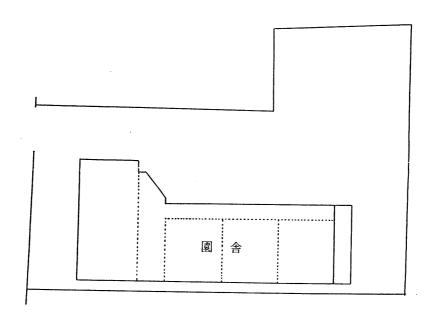


'80 (昭55)年-

〔本庄東幼稚園〕



'54 (昭29)年-'75 (昭50)年



'91(平3)年-

創立60周年記念事業の歩み

1989 (平1) 年

7月30日 理事会・評議員会で、60周年記念事業として本庄東幼稚園々舎新築を決 定。

10月2日 理事会・評議員会で、学校法人岩田学園創立60周年記念事業推進委員会の発足を決定。理事・評議員・監事は全員実行委員となり、下記の組織を結成。

会 長	高橋	福	八	実 行 勢	を員	島	方	千	鶴
副会長	岩 田	祥	江	"		清	水	淳	子
実行委員長	堀 口	久	枝	"		千化	田力	信	子
実行副委員長	加藤	玄	静	"		中	村	多美	美子
"	中 原	秀	夫	"		中	山	訓	好
"	萩原	史	夫	"		福	島	永	子
"	星 野	泰	雄	監	事	小	池	幸	造
"	山口	敏	裕	"		吉	Ш	洋	_
実行委員	大 木	玲	子	事 務	局	岩	田	紀主	
"	春日	< 1	こ子	"		岩	田	龍	司
"	斉 藤	君	代						

推進委員会は次の二事業を行なうことを決定。

- 1. 本庄東幼稚園々舎新築
- 2. 記念誌の発行(含、同窓生名簿)

推進委員会は、更に寄付金募集活動を行なうことを決定。目標額は2200万円、 対象は卒園者、一般協賛者とすることとする。

1990 (平2)年

- 3月5日 第2回推進委員会、同窓生名簿作成準備
- 5月19日 学校法人岩田学園創立60周年記念事業推進協力委員会発会式。埼玉グランドホテル本庄。協力委員96名。出席80名。
- 5月24日 文部省補助金交付申請書、県学事課に提出。
- 8月27日 第6回推進委員会。業者検討決定、真下工務店八木建設共同企業体とする。
- 10月5日 県私学振興資金希望調書作成。

1991 (平3)年

1992年 3 月25日発行

編集·発行 学校法人岩田学園創立60周年

記 念 事 業 推 進 委 員 会 埼玉県本庄市中央3丁目3番3号 電 話 0495-22-24 1 2

印 刷 株式会社 クロイワ 印刷 埼玉県本庄市銀座1丁目3番19号

電話 0495-21-3 5 3 1

